

chofu

データブック

1	生物	2
2	大気	6
3	水	40
4	騒音・振動	69

1 生物

(1) 調布市環境モニター調査

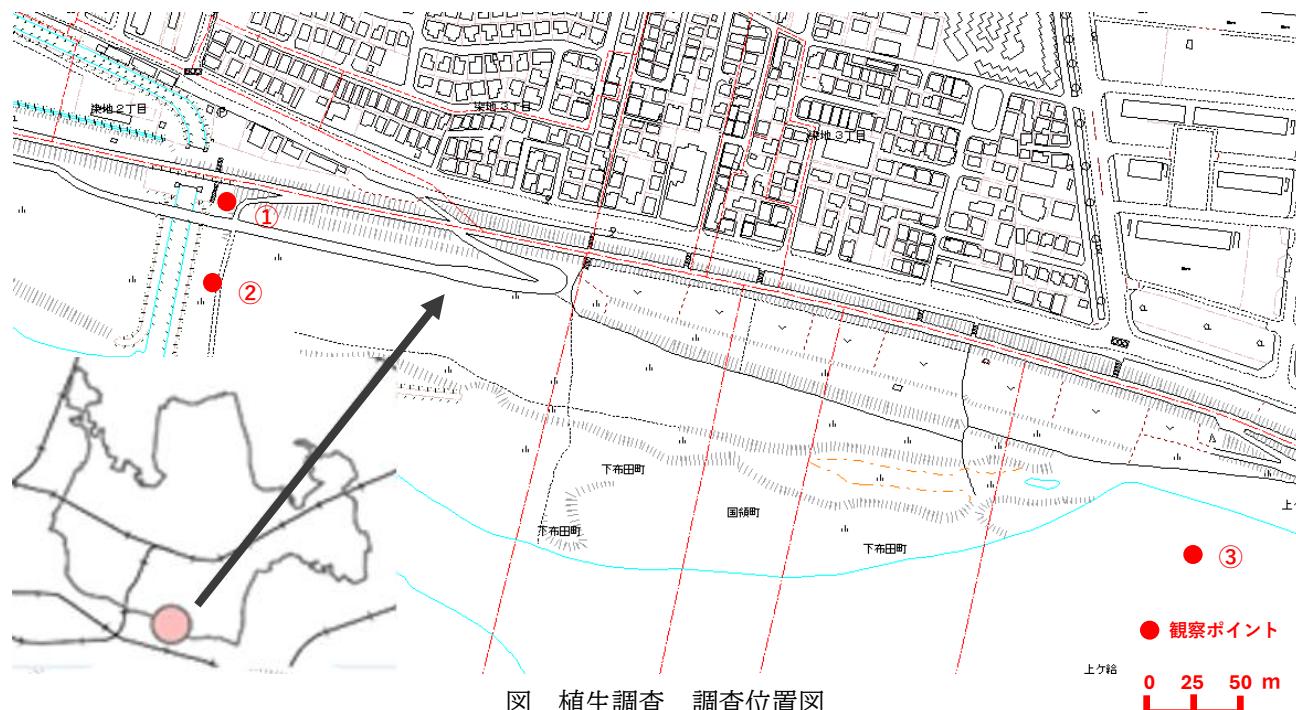
① 調布市環境モニターの概要

- 市民と市が協働で調布の自然を見守り、自然環境の保全に役立てるため、植物観察を中心に、調布の地形、鳥、昆虫などの自然観察を行っている活動です。この活動の一つとして、多摩川の河川敷の植生調査を行っています。

表 植生調査 調査概要

調査対象	調査方法	調査時期	調査箇所数
多摩川河川敷	定点調査	9月	3 地点

② 調査結果



※観察ポイント③については、左の図の位置で継続的に調査を実施していますが、昨年度まで、報告書上における表示にずれがありましたが、位置の表示を修正しています。

表 調査地の特徴

調査日	観察ポイント①						観察ポイント③					
	地形	平地	郡系	草	面積	2m×2m	地形	平地	郡系	草	面積	2m×2m
2024/9/30	地形	平地	郡系	草	面積	2m×2m	地形	平地	郡系	草	面積	2m×2m
	風当	強	日当	陽	土湿	適	風当	強	日当	陽	土湿	適
観察ポイント②												
2024/9/30	地形	平地	郡系	草	面積	2m×2m						
	風当	強	日当	陽	土湿	適						
観察ポイント①の特徴												
用水に隣接する堤防法面下部の平地で、遮蔽物がないため日当たりがよく、風当たりがやや強い地点である。本地点は出水による影響が小さく、定期的な草刈が行われているため、植生環境が安定している地点となっている。調査時点では今年中に草刈が行われた様子は確認されなかった。												
観察ポイント②の特徴												
高水敷であり出水による影響が小さく、草刈頻度が低いが、安定した高茎草地と考えられる。遮蔽物がないため日当たりがよく、風当たりがやや強い地点である。												
観察ポイント③の特徴												
令和元年度9月の台風以降に植物が混入した新しい河原で、礫の間に少しの砂がある程度の河原である。出水の影響を受けやすく、今後も、短期間に多様な植物種の侵入が繰り返されることが予想される。												

- ・植生調査ポイントは図に示す3地点で実施しました。低茎草地（ポイント①）11種、高茎草地（ポイント②）8種、河原（ポイント③）13種の植物種の生息を確認しました。
- ・観察ポイント①と観察ポイント③では生息種数は減少しました。
- ・今回の調査で初めて生息が確認された種は、ポイント①でメマツヨイグサ、イタドリ、オオバコ、ハルジオン、セイタカアワダチソウの5種、ポイント③ではヤブカラシ、スズメノエンドウ、アレチウリ、カラシナの4種の生息が各地点において新たに確認されました。新規確認種はいずれも河川敷では普通にみられる種です。
- ・外来種の優占割合はポイント①54.5%，ポイント②37.5%，ポイント③61.5%となり、観察ポイント①および③では外来種の割合が50%を上回っており、観察ポイント③では特定外来生物であるアレチウリも確認されました。いずれの観察ポイントでも外来種が多いですが、広い範囲で見れば在来種も点在している状況です。外来種の割合が高いことは、関東地方の一級河川では一般的な傾向です。

表 植生調査

観察ポイント①	R4 10/10	R5 10/9	R6 9/30
ハマスゲ		○	
メヒシバ	○	○	
アキメヒシバ	○		
アオカモジグサ			○
カゼクサ	○	○	
シマスズメノヒエ	○		
チカラシバ	○	○	
キンエノコロ	○	○	○
セイバンモロコシ	○	○	○
シバ	○	○	
ヤブカラシ	○	○	
ムラサキツメクサ			○
シロツメクサ	○	○	

観察ポイント①	R4 10/10	R5 10/9	R6 9/30
ヤハズエンドウ		○	○
オツタチカタバミ	○	○	
メマツヨイグサ			○
イタドリ			○
アレチギシギシ	○	○	
ナガバギシギシ		○	
オオバコ			○
ヘラオオバコ	○	○	
コセンダングサ	○		
ヒメジョオン	○	○	
ヒメムカシヨモギ	○		○
ハルジオン			○
セイタカアワダチソウ		○	○
種数合計	16	16	11

観察ポイント②	R4 10/10	R5 10/9	R6 9/30
ギョウギシバ	○	○	
メヒシバ	○	○	
アオカモジグサ			○
カゼクサ	○		
オギ	○	○	○
ツルヨシ			
コツブキンエノコロ			
セイバンモロコシ	○	○	○
ヤブカラシ			○
ヤハズエンドウ			○
アリタソウ		○	
オオブタクサ	○	○	○
ヨモギ	○	○	○
コセンダングサ	○	○	○
ヒメムカシヨモギ			○
種数合計	8	9	8

観察ポイント③	R4 10/10	R5 10/9	R6 9/30
イヌドクサ	○	○	
カヤツリグサ		○	
ハマスゲ	○	○	
ギヨウギシバ	○	○	
メヒシバ	○	○	○
イヌビエ		○	
シナダレスズメガヤ	○	○	○
コスズメガヤ	○	○	
ニワホコリ		○	
ススキ	○	○	
ツルヨシ		○	
カタバエノコログサ	○	○	
セイバンモロコシ	○	○	○
ツルマンネングサ	○		
ヨコハママンネングサ	○		
ヤブカラシ			○
マルバヤハズソウ	○	○	
メドハギ	○	○	○
スズメノエンドウ			○
アレチウリ			○
オッタチカタバミ	○	○	○

観察ポイント③	R4 10/10	R5 10/9	R6 9/30
コニシキソウ	○	○	
オオニシキソウ		○	
メマツヨイグサ	○	○	
コマツヨイグサ	○	○	
カラシナ			○
マメグンバイナズナ	○	○	
アレチギシギシ	○		
ナガバギシギシ	○	○	
ホソアオゲイトウ		○	
シロザ	○	○	
アリタソウ	○	○	
ヒメマツバボタン	○	○	
オオフタバムグラ	○	○	
ヘラオオバコ	○		
アレチハナガサ	○	○	
オオブタクサ			○
ヨモギ	○	○	○
コセンダングサ	○	○	○
ハルシャギク	○	○	
ヒメジョオン	○	○	
ヒメムカシヨモギ	○	○	○
種数合計	31	33	13

2 大気

(1) 大気汚染

① 大気汚染に係る環境基準

表 大気汚染に係る環境基準

環境基準	評価方法 (①, ②は年間の測定時間が6,000時間未満のものは評価することができない。)	
	短期的評価	長期的評価
二酸化硫黄 (SO ₂)	1時間値の1日平均値が0.04ppm以下であり,かつ, 1時間値が0.1ppm以下であること。	
一酸化炭素 (CO)	1時間値の1日平均値が10ppm以下であり,かつ, 1時間値の8時間平均値が20ppm以下であること。	測定を行った日についての1日平均値, 8時間平均値, 又は各1時間値を環境基準と比較して評価を行う。
浮遊粒子状物質 (SPM)	1時間値の1日平均値が0.10mg/m ³ 以下であり, かつ, 1時間値が0.20mg/m ³ 以下であること。	①年間の1日平均値のうち, 高いほうから2%の範囲内にあるもの (365日分の測定値がある場合は7日分の測定値) を除外した後の最高値 (2%除外値) を, 環境基準と比較して評価する。ただし, 環境基準値を超える日が2日以上連続した場合には, 非達成とする。
光化学オキシダント (O _x)	1時間値が0.06ppm以下であること。	—
二酸化窒素 (NO ₂)	1時間値の1日平均値が0.04ppmから0.06ppmまでのゾーン内又はそれ以下であること。	②年間の1日平均値のうち, 低い方から98%に相当するもの (98%値) を, 環境基準 (0.06ppm) と比較して評価する。

資料：環境省

表 微小粒子状物質に係る環境基準

	環境基準	評価方法 (年間の有効測定日数が250日未満のものは評価することができない。)
微小粒子状物質 (PM2.5)	1年平均値が $15\text{ }\mu\text{g}/\text{m}^3$ 以下であり、かつ、1日平均値が $35\text{ }\mu\text{g}/\text{m}^3$ 以下であること。	「長期基準に関する評価」及び「短期基準に関する評価」を各々行い、両方を満足した場合に達成されたと評価する。 長期的評価：1年平均値を環境基準と比較して行う。 短期的評価：年間の1日平均値のうち、低い方から98%に相当するもの(98%値)を、環境基準と比較して評価する。

資料：環境省

表 大気汚染に係る指針（光化学オキシダントの生成防止のための大気中炭化水素濃度の指針）

光化学オキシダントの日最高1時間値 0.06 ppm に対応する午前6時から9時までの非メタン炭化水素の3時間平均値は、 0.20 ppmC から 0.31 ppmC の範囲にある。

資料：環境省

② 調査結果

大気測定地点図

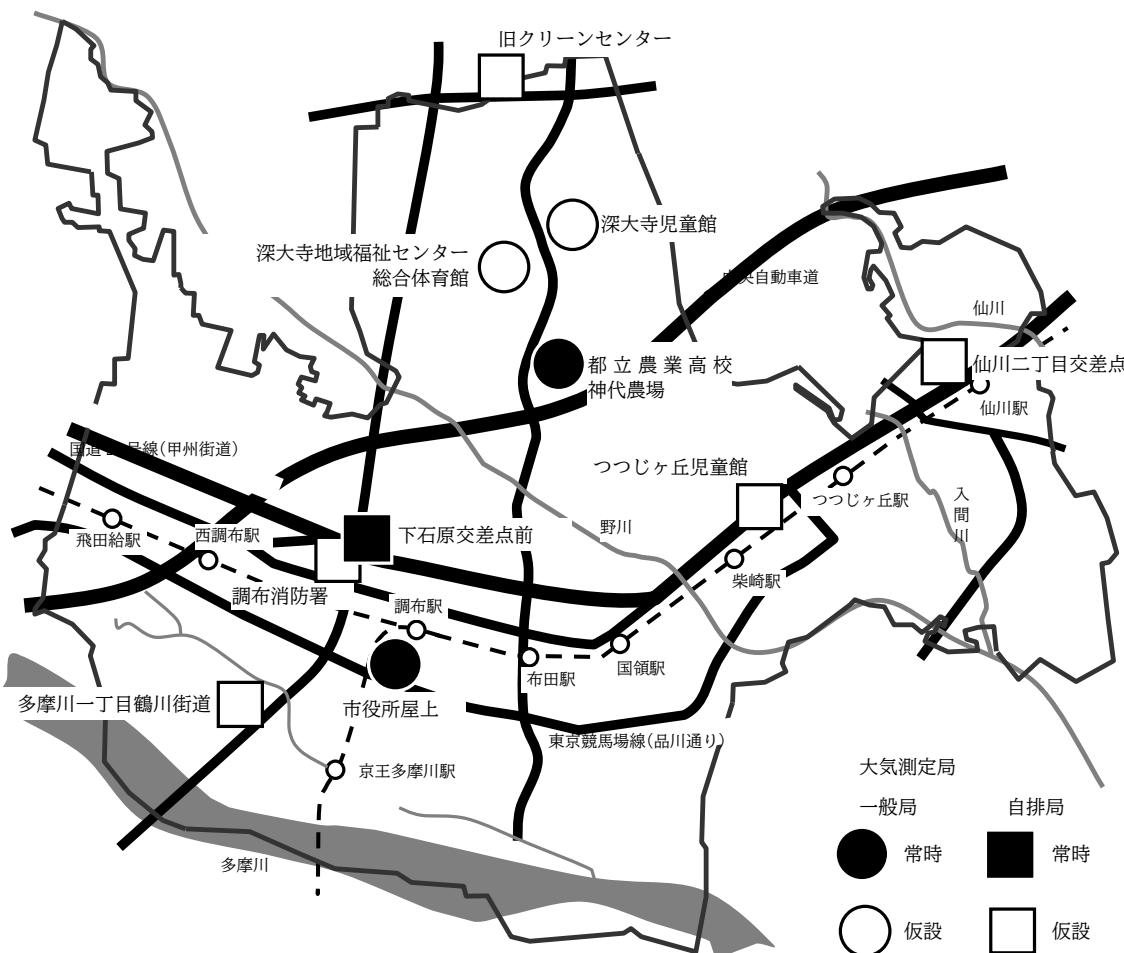


図 大気測定地点図

- ・一般局：一般環境の大気汚染状況を監視する一般環境測定局
 - ・自排局：自動車排出ガスの影響を受ける沿道の大気汚染状況を監視する自動車排出ガス測定局
 - ・常時（固定式）：年間6,000時間以上測定
 - ・仮設（移動式）：連続7日間測定

二酸化硫黄 (SO₂)

- 昭和30年代以降の高度経済成長による産業の大規模化、高度化が進行するとともに、石炭や石油の利用が進み、燃焼による排出ガスに含まれる硫黄酸化物による大気汚染が進みました。
- これに対して、昭和43年に制定された「大気汚染防止法」に基づいた工場や事業所におけるボイラーや焼却炉から排出されるばい煙に対する規制、燃料の低硫黄化技術、排煙の脱硫化技術の推進などの対策が進み、その汚染濃度は昭和40年代から改善されてきました。
- 調布市のSO₂濃度についても改善の傾向が見られます。
- 平成24年度までの10年間のSO₂濃度の推移を見ると、日平均値の2%除外値では各計測地点で、全体的に緩やかながら減少する傾向が見られます。
- その計測値は一貫して、長期的評価を達成しており、平成25年度以降、調査していません。

表 二酸化硫黄の長期的評価（日平均値の2%除外値）の推移

(単位: ppm)

	市役所屋上 測定局	環境基準 (日平均値0.04ppm以下) 適合状況	下石原交差点前 測定局	環境基準 (日平均値0.04ppm以下) 適合状況
		長期的評価		自排局
平成20年度	-	-	-	-
21	0.004	○	0.004	○
22	0.003	○	0.003	○
23	0.003	○	0.003	○
24	0.003	○	0.003	○

※ 平成25年度から未計測

資料：環境政策課

一酸化炭素 (CO)

- 「大気汚染防止法」における許容限度に基づいて、「道路運送車両法」に基づく保安基準による規制（排ガス規制）値が改正されました。また、車両の点検整備体制の充実強化などの対策も進み、その汚染濃度は昭和50年代には大幅に改善されました。
- 過去のCO濃度の推移を見ると、日平均値の2%除外値では、一貫して環境基準を下回る数値を示しており、長期的評価を達成しています。

表 一酸化炭素の環境基準適合状況

		短期的評価			長期的評価		
		8時間値が 20ppmを超えた 時間数 (時間)	日平均値が 10ppmを超えた 日数 (日)	適合 状況	日平均値の 2%除外値 (ppm)	日平均値が 10ppmを超える 日が2日以上 連続した日数 (日)	適合 状況
一般局	都立農業高校神代農場	—	—	—	—	—	—
	市役所屋上 測定局	—	—	—	—	—	—
	東京都全域	—	—	—	—	—	—
自排局	下石原交差点前測定局	0	0	○	0.5	0	○
	東京都全域	—	—	—	—	—	—

資料：環境政策課

表 令和6年度 一酸化炭素月別変化（下石原交差点前測定局） 計測結果

測定地点		下石原交差点前測定局								
測定項目		有効測定日数	測定時間	1時間値の平均値	1時間値の最高値	日平均値の最高値	8時間平均値>20ppm回数	日平均値>10ppm日数	日平均値>10ppm2日以上連續有無	長期評価日平均値>10ppm日数
		(日)	(時間)	(ppm)	(ppm)	(ppm)	(回)	(日)	-	(日)
令和6年	4月	30	713	0.3	0.5	0.4	0	0	無	0
	5月	31	736	0.2	0.4	0.3	0	0	無	0
	6月	30	714	0.2	0.5	0.4	0	0	無	0
	7月	31	736	0.2	0.6	0.4	0	0	無	0
	8月	31	737	0.2	0.4	0.3	0	0	無	0
	9月	30	713	0.2	0.6	0.3	0	0	無	0
	10月	31	738	0.3	0.8	0.4	0	0	無	0
	11月	30	714	0.4	1.1	0.5	0	0	無	0
	12月	31	736	0.4	1.2	0.6	0	0	無	0
令和7年	1月	31	738	0.4	1.2	0.6	0	0	無	0
	2月	28	665	0.4	1.1	0.6	0	0	無	0
	3月	31	737	0.3	0.7	0.5	0	0	無	0
年 計		365	8,677	0.3	1.2	0.6	0	0	無	0

資料：環境政策課

表 一酸化炭素の日平均値の2%除外値の推移

(単位: ppm)

	市役所屋上 測定局	環境基準 (日平均値10ppm以下) 適合状況	下石原交差点前 測定局	環境基準 (日平均値10ppm以下) 適合状況
一般局	長期的評価	自排局	長期的評価	
平成27年度	—	—	—	—
28	—	—	—	—
29	—	—	0.6	○
30	—	—	0.5	○
令和元年度	—	—	0.5	○
2	—	—	0.6	○
3	—	—	0.5	○
4	—	—	0.6	○
5	—	—	0.6	○
6	—	—	0.5	○

※ 表中の○×は環境基準値の適合状況を示す。市役所屋上測定局は平成25年度から未計測
※ 下石原交差点前測定局は借用地整備のため、平成27年3月から平成29年5月まで未計測

資料：環境政策課

表 移動測定 一酸化炭素の1時間値の平均値の推移

(単位: ppm)

	つつじヶ丘児童館				深大寺児童館				多摩川一丁目鶴川街道			
	春季	夏季	秋季	冬季	春季	夏季	秋季	冬季	春季	夏季	秋季	冬季
平成29年度	—	—	—	0.4	—	—	—	0.3	—	—	—	0.5
30	—	—	—	0.4	—	—	—	0.3	—	—	—	0.5
令和元年度	—	—	—	0.4	—	—	—	0.6	—	—	—	0.5
2	—	—	—	0.5	—	—	—	0.4	—	—	—	0.5
3	—	—	—	0.5	—	—	—	0.4	—	—	—	0.5
4	—	—	—	0.7	—	—	—	0.4	—	—	—	0.5
5	—	—	—	0.4	—	—	—	0.3	—	—	—	0.4
6	—	—	—	0.4	—	—	—	0.3	—	—	—	0.4

資料：環境政策課

浮遊粒子状物質（SPM）

- 調布市のSPM濃度は、測定開始年度から、全体的には減少傾向です。また、濃度が高かった下石原交差点前測定局（自排局）の数値も大きく改善しています。
- 日平均値の2%除外値についてはほぼ横ばいで、環境基準を達成しています。
- また、場所別に見ると、自排局と一般局にほとんど差はありません。

表 浮遊粒子状物質の環境基準適合状況

		短期的評価			長期的評価		
		1時間値が 0.20mg/m ³ を 超えた時間数 (時間)	日平均値が 0.10mg/m ³ を 超えた日数 (日)	適合 状況	日平均値の 2%除外値 (mg/m ³)	日平均値が 0.10mg/m ³ を 超えた日が 2日以上 連続した日数 (日)	適合 状況
一般局	東京都全域	—	—	—	—	—	—
	都立農業高校神代農場	0	—	○	—	0	○
	市役所屋上測定局	0	0	○	0.034	0	○
自排局	東京都全域	—	—	—	—	—	—
	下石原交差点前測定局	0	0	○	0.028	0	○

資料：東京都環境局、環境政策課

表 (都立農業高等学校神代農場) 令和5年度の浮遊粒子状物質の月別変化

測定地点		都立農業高等学校神代農場						
測定項目		有効測定日数	測定時間	月平均値	1時間値の最高値	日平均値の最高値	1時間値 >0.2mg/m ³ 時間数	日平均値 >0.1mg/m ³ 日数
		(日)	(時間)	(mg/m ³)	(mg/m ³)	(mg/m ³)	(時間)	(日)
令和5年	4月	30	715	0.016	0.046	0.037	0	0
	5月	28	694	0.014	0.055	0.032	0	0
	6月	30	715	0.015	0.054	0.024	0	0
	7月	31	737	0.017	0.036	0.026	0	0
	8月	31	736	0.014	0.044	0.029	0	0
	9月	30	715	0.013	0.038	0.027	0	0
	10月	30	723	0.010	0.023	0.016	0	0
	11月	28	681	0.013	0.049	0.032	0	0
	12月	31	739	0.011	0.039	0.018	0	0
令和6年	1月	31	738	0.008	0.056	0.020	0	0
	2月	29	692	0.008	0.028	0.015	0	0
	3月	31	738	0.011	0.047	0.028	0	0
年 計		360	8,623	0.013	0.056	0.037	0	0

※ 令和6年度分データの東京都データは作成時未公表

資料：東京都環境局

表 (市役所屋上測定局) 令和6年度の浮遊粒子状物質の月別変化

測定地点		市役所屋上測定局						
測定項目	有効測定日数	測定時間	1時間値の平均値	1時間値の最高値	日平均値の最高値	1時間値 >0.2mg/m ³ 時間数	日平均値 >0.1mg/m ³ 日数	
	(日)	(時間)	(mg/m ³)	(mg/m ³)	(mg/m ³)	(時間)	(日)	
令和6年	4月	30	719	0.018	0.074	0.045	0	0
	5月	31	743	0.012	0.048	0.020	0	0
	6月	30	716	0.014	0.060	0.037	0	0
	7月	31	743	0.023	0.069	0.038	0	0
	8月	31	743	0.017	0.065	0.032	0	0
	9月	29	707	0.015	0.043	0.028	0	0
	10月	31	740	0.014	0.037	0.022	0	0
	11月	30	719	0.012	0.032	0.026	0	0
	12月	30	734	0.010	0.035	0.017	0	0
令和7年	1月	31	742	0.011	0.038	0.020	0	0
	2月	28	671	0.011	0.047	0.024	0	0
	3月	31	742	0.016	0.097	0.041	0	0
年 計		363	8,719	0.014	0.097	0.045	0	0

資料：環境政策課

表 (下石原交差点前測定局) 令和6年度の浮遊粒子状物質の月別変化

測定地点		下石原交差点前測定局						
測定項目	有効測定日数	測定時間	1時間値の平均値	1時間値の最高値	日平均値の最高値	1時間値 >0.2mg/m ³ 時間数	日平均値 >0.1mg/m ³ 日数	
	(日)	(時間)	(mg/m ³)	(mg/m ³)	(mg/m ³)	(時間)	(日)	
令和6年	4月	30	719	0.015	0.064	0.037	0	0
	5月	29	714	0.011	0.025	0.019	0	0
	6月	30	719	0.012	0.046	0.030	0	0
	7月	31	742	0.018	0.044	0.030	0	0
	8月	31	741	0.013	0.037	0.021	0	0
	9月	30	719	0.011	0.031	0.021	0	0
	10月	31	743	0.011	0.028	0.017	0	0
	11月	30	717	0.010	0.024	0.020	0	0
	12月	31	743	0.007	0.025	0.013	0	0
令和7年	1月	31	743	0.008	0.029	0.015	0	0
	2月	28	670	0.008	0.033	0.019	0	0
	3月	31	742	0.013	0.086	0.035	0	0
年 計		363	8,712	0.011	0.086	0.037	0	0

※ 下石原交差点前測定局は借用地整備のため、平成27年3月から平成29年5月まで未計測

資料：環境政策課

表 浮遊粒子状物質 の時間値の年平均値の推移

(単位: mg/m³)

	(一般局)			(自排局)	
	東京都全域	都立農業高校 神代農場	市役所屋上 測定局	東京都全域	下石原交差点前 測定局
平成27年度	0.019	0.017	0.017	0.021	—※
28	0.017	0.014	0.015	0.019	—※
29	0.017	0.014	0.013	0.019	0.014
30	0.018	0.014	0.014	0.019	0.014
令和元年度	0.016	0.013	0.015	0.017	0.013
2	0.014	0.012	0.014	0.016	0.012
3	0.012	0.009	0.012	0.014	0.011
4	0.013	0.011	0.014	0.014	0.011
5	0.013	0.013	0.014	—	0.011
6	—	—	0.014	—	0.011

※ 下石原交差点前測定局は、借用地整備工事のため、平成27年3月から平成29年5月まで未計測、当該工事完了に伴い、平成29年6月1日から供用開始

資料：東京都環境局、環境政策課

表 浮遊粒子状物質の日平均値の2%除外値の推移

(単位: mg/m³)

	一般局				自排局	
	都立農業高校 神代農場	環境基準※ 適合状況	市役所屋上測定局	環境基準※ 適合状況	下石原交差点 測定局	環境基準※ 適合状況
平成27年度	0.042	○	0.047	○	—	—
28	0.034	○	0.043	○	—	—
29	0.032	○	0.032	○	0.031	○
30	0.040	○	0.041	○	0.033	○
令和元年度	0.034	○	0.040	○	0.028	○
2	0.037	○	0.040	○	0.028	○
3	0.025	○	0.025	○	0.023	○
4	0.025	○	0.032	○	0.023	○
5	0.028	○	0.030	○	0.023	○
6	—	—	0.034	○	0.028	○

※ 日平均値の2%除外値の環境基準 日平均値0.10mg/m³以下

資料：東京都環境局、環境政策課

表 浮遊粒子状物質の短期的評価の推移

	一般局						自排局		
	都立農業高校神代農場			市役所屋上測定局			下石原交差点前測定局		
環境評価	1時間値が 0.20mg/m ³ を 超えた時間数 (時間)	日平均値が 0.10mg/m ³ を 超えた日 (日)	適合 状況	1時間値が 0.20mg/m ³ を 超えた時間数 (時間)	日平均値が 0.10mg/m ³ を 超えた日 (日)	適合 状況	1時間値が 0.20mg/m ³ を 超えた時間数 (時間)	日平均値が 0.10mg/m ³ を 超えた日 (日)	適合 状況
平成27	0	0	○	0	0	○	—	—	—
28	0	0	○	0	0	○	—	—	—
29	0	0	○	0	0	○	0	0	○
30	0	0	○	0	0	○	0	0	○
令和元	0	0	○	0	0	○	0	0	○
2	0	0	○	0	0	○	0	0	○
3	0	0	○	0	0	○	0	0	○
4	0	0	○	0	0	○	0	0	○
5	0	0	○	0	0	○	0	0	○
6	—	—	—	0	0	○	0	0	○

※ 表中の○×は環境基準値の適合状況を示す。市役所屋上測定局は平成25年度から未計測

※ 下石原交差点前測定局は借用地整備のため、平成27年3月から平成29年5月まで未計測

資料：東京都環境局、環境政策課

表 移動測定 浮遊粒子状物質の1時間値の平均値

(単位: mg/m³)

	つつじヶ丘児童館 旧クリーンセンター 仙川二丁目交差点※	深大寺児童館 深大寺地域福祉センター※	多摩川一丁目鶴川街道
計測時期	冬季	冬季	冬季
平成27	0.014	0.016	0.019
28	0.006	0.010	0.014
29	0.006	0.012	0.014
30	0.015	0.022	0.018
令和元	0.030	0.027	0.010
2	0.012	0.011	0.011
3	0.013	0.006	0.011
4	0.011	0.010	0.014
5	0.011	0.007	0.011
6	0.012	0.006	0.012

※ 平成25, 27~29, 令和元年度以降はつつじヶ丘児童館, 平成30年度旧クリーンセンター,
その他の年度は仙川二丁目交差点にて測定

資料: 東京都環境局, 環境政策課

※ 平成28年度は深大寺地域福祉センターにて測定。平成26年度は未計測

二酸化窒素 (NO₂)

- 平成5年に制定された「環境基本法」に基づいて定められた環境基準ではNO₂濃度による基準が設定されていますが、「大気汚染防止法」に基づく規制や、「道路運送車両法」に基づく保安基準、「自動車NO_x・PM法」における排出基準などでは、NO_xに対する基準が定められています。調布市のNO₂濃度については、緩やかに減少する傾向が見られます。
- 日平均値の98%値については、環境基準に適合しています。一般局では基準となるゾーン内又はそれ以下を概ね維持しています。また、場所別に見ると、一般局と自排局では自排局の方が比較的高く、自動車の排出ガスの影響を受けていると考えられます。

表 二酸化窒素 環境基準適合状況

		日平均値の年間98%値	日平均値が0.06ppmを超えた日数	98%値評価	
				環境基準適合状況	
一般局	東京都全域	—	—	—	—
	都立農業高校神代農場	—	—	—	—
	市役所屋上測定局	0.027	0	○	○
自排局	東京都全域	—	—	—	—
	下石原交差点前測定局	0.032	0	○	○

※ 下石原交差点前測定局は借用地整備のため、平成27年3月から平成29年5月まで未計測

資料：東京都環境局

表 令和5年度の二酸化窒素月別変化（都立農業高等学校神代農場）

測定地点		都立農業高等学校神代農場								
測定項目		有効測定日数	測定時間	月平均値	1時間値の最高値	日平均値の最高値	1時間値>0.2ppm時間数	1時間値が0.1ppm以上0.2ppm以下の時間数	日平均値>0.06ppm日数	日平均値が0.04ppm以上0.06ppm以下の日数
		(日)	(時間)	(ppm)	(ppm)	(ppm)	(時間)	(時間)	(日)	(日)
令和5年	4月	30	710	0.007	0.029	0.013	0	0	0	0
	5月	31	731	0.007	0.023	0.012	0	0	0	0
	6月	30	708	0.007	0.033	0.014	0	0	0	0
	7月	31	732	0.006	0.021	0.010	0	0	0	0
	8月	31	731	0.005	0.017	0.010	0	0	0	0
	9月	30	710	0.007	0.030	0.013	0	0	0	0
	10月	31	732	0.009	0.047	0.021	0	0	0	0
	11月	30	711	0.013	0.055	0.030	0	0	0	0
	12月	31	735	0.018	0.055	0.029	0	0	0	0
令和6年	1月	28	678	0.014	0.062	0.041	0	0	0	0
	2月	29	685	0.011	0.058	0.029	0	0	0	0
	3月	31	733	0.009	0.036	0.019	0	0	0	0
年計		363	8,596	0.009	0.062	0.041	0	0	0	0

※ 令和6年度分データの東京都データは作成時未公表

資料：東京都環境局

表 令和6年度の二酸化窒素月別変化（市役所屋上測定局）

測定地点		市役所屋上測定局								
測定項目		有効測定日数	測定時間	1時間値の平均値	1時間値の最高値	日平均値の最高値	1時間値 > 0.2ppm 時間数	1時間値が 0.1ppm以上 0.2ppm以下 の時間数	日平均値 > 0.06ppm 日数	日平均値が 0.04ppm以上 0.06ppm以下の日数
		(日)	(時間)	(ppm)	(ppm)	(ppm)	(時間)	(時間)	(日)	(日)
令和6年	4月	30	713	0.010	0.032	0.020	0	0	0	0
	5月	31	738	0.006	0.027	0.010	0	0	0	0
	6月	30	711	0.007	0.030	0.011	0	0	0	0
	7月	31	736	0.007	0.022	0.011	0	0	0	0
	8月	31	738	0.005	0.018	0.009	0	0	0	0
	9月	30	712	0.006	0.025	0.012	0	0	0	0
	10月	31	735	0.010	0.039	0.019	0	0	0	0
	11月	30	714	0.012	0.051	0.024	0	0	0	0
	12月	30	727	0.018	0.055	0.032	0	0	0	0
令和7年	1月	31	738	0.016	0.061	0.031	0	0	0	1
	2月	28	666	0.012	0.066	0.026	0	0	0	0
	3月	31	736	0.010	0.057	0.022	0	0	0	0
年 計		364	8,664	0.010	0.066	0.032	0	0	0	1

資料：環境政策課

表 令和6年度の二酸化窒素月別変化（下石原交差点前測定局）

測定地点		下石原交差点前測定局								
測定項目		有効測定日数	測定時間	1時間値の平均値	1時間値の最高値	日平均値の最高値	1時間値>0.2ppm時間数	1時間値が0.1ppm以上0.2ppm以下の時間数	日平均値>0.06ppm日数	日平均値が0.04ppm以上0.06ppm以下の日数
		(日)	(時間)	(ppm)	(ppm)	(ppm)	(時間)	(時間)	(日)	(日)
令和6年	4月	30	713	0.013	0.037	0.024	0	0	0	0
	5月	31	738	0.009	0.032	0.015	0	0	0	0
	6月	29	704	0.010	0.036	0.016	0	0	0	0
	7月	31	736	0.010	0.032	0.017	0	0	0	0
	8月	31	738	0.007	0.027	0.014	0	0	0	0
	9月	30	712	0.009	0.028	0.016	0	0	0	0
	10月	31	737	0.012	0.040	0.022	0	0	0	0
	11月	30	714	0.016	0.054	0.027	0	0	0	0
	12月	31	735	0.022	0.060	0.034	0	0	0	0
令和7年	1月	31	738	0.019	0.064	0.039	0	0	0	1
	2月	28	666	0.015	0.070	0.030	0	0	0	0
	3月	31	735	0.013	0.061	0.025	0	0	0	0
年計		364	8,666	0.013	0.070	0.039	0	0	0	1

※ 下石原交差点前測定局は借用地整備のため、平成27年3月から平成29年5月まで未計測

資料：環境政策課

表 二酸化窒素 1時間値の年平均値の推移

(単位: ppm)

	(一般局)			(自排局)	
	東京都全域	都立農業高校 神代農場	市役所屋上 測定局	東京都全域	下石原交差点前 測定局
平成27年度	0.017	0.014	0.016	0.025	—
28	0.016	0.013	0.014	0.023	—
29	0.016	0.014	0.015	0.023	0.020
30	0.014	0.012	0.013	0.021	0.017
令和元年度	0.014	0.011	0.012	0.020	0.017
2	0.013	0.011	0.012	0.018	0.015
3	0.012	0.011	0.012	0.018	0.015
4	0.012	0.010	0.011	0.017	0.015
5	0.012	0.009	0.010	0.017	0.014
6	—	—	0.010	—	0.013

資料: 環境政策課・東京都環境局

表 二酸化窒素の日平均値の98%値と日平均値が0.06ppmを超えた日数の推移

	一般局				自排局	
	都立農業高校神代農場		市役所屋上測定局		下石原交差点前測定局	
	日平均値の年間98%値(ppm)	日平均値が0.06ppmを超えた日数(日)	日平均値の年間98%値(ppm)	日平均値が0.06ppmを超えた日数(日)	日平均値の年間98%値(ppm)	日平均値が0.06ppmを超えた日数(日)
平成27年度	0.032	0	0.034	0	—	—
28	0.030	0	0.032	0	—	—
29	0.031	0	0.034	0	0.041	0
30	0.031	0	0.036	0	0.040	0
令和元年度	0.026	0	0.028	0	0.031	0
2	0.028	0	0.031	0	0.036	1
3	0.025	0	0.027	0	0.033	0
4	0.026	0	0.029	0	0.033	0
5	0.025	0	0.027	1	0.034	1
6	—	—	0.027	0	0.032	0

資料：環境政策課・東京都環境局

表 移動測定 二酸化窒素の1時間値の平均値

(単位: ppm)

	つつじヶ丘児童館 旧クリーンセンター 仙川二丁目交差点※	深大寺児童館 深大寺地域福祉センター※	多摩川一丁目鶴川街道
計測時期	冬季	冬季	冬季
平成27	0.017	0.021	0.031
28	0.017	0.010	0.028
29	0.023	0.015	0.025
30	0.021	0.017	0.017
令和元	0.028	0.014	0.017
2	0.022	0.012	0.022
3	0.021	0.012	0.027
4	0.020	0.013	0.025
5	0.019	0.007	0.020
6	0.016	0.008	0.019

※ 平成25, 27~29, 令和元年度以降はつつじヶ丘児童館, 平成30年度旧クリーンセンター,
その他の年度は仙川二丁目交差点にて測定

※ 平成28年度は深大寺地域福祉センターにて測定。平成26年度は未計測

資料: 環境政策課

光化学オキシダント (O_x)

- 「大気汚染防止法」ではO_xの環境基準値を定め、光化学スモッグの注意報、警報の基準として、O_xの時間濃度を用いています。また、O_xの原因物質であるNO_xやVOCに対する排出規制、VOCに対する事業者の自主的取組による対策なども進められています。
- 調布市のO_x濃度については、ほぼ横ばいで推移しています。
- 令和6年度は、光化学スモッグの注意報が3回発令され、光化学オキシダントの環境基準には適合していません。

表 オキシダントが高濃度になる条件

①気温	日最高気温が25°C以上
②日照時間	日照があること（日射量13MJ/m ² /日以上）
③海風	東京湾及び相模湾からの海風の進入があること
④安定度	安定であること 館野高層気象台9時の状態曲線0～1,000mの気温差が7°C以下
⑤上空の風	館野高層気象台9時の状態曲線で、1,000m以下の風が南よりの風でないこと
⑥天気図	夏型の気圧配置（鯨の尾型） 移動性高気圧又は低気圧や前線の間で気圧傾度が緩い場合

資料：東京都環境局

表 光化学オキシダント注意報 発令基準

段階	発令の基準	措置	
		緊急時協力工場・事業場	一般
学校情報	オキシダント濃度0.10ppm以上で継続するとき	—	<ul style="list-style-type: none"> 屋外になるべくでない 屋外運動は差し控える 被害にあったときは保健所に届ける
予報	高濃度汚染が予想されるとき	燃料使用量の削減要請	
注意報	オキシダント濃度0.12ppm以上で継続するとき	通常の燃料使用量より20%程度削減勧告	
警報	オキシダント濃度0.24ppm以上で継続するとき	通常の燃料使用量より40%程度削減勧告	
重大緊急報	オキシダント濃度0.40ppm以上で継続するとき	通常の燃料使用量より40%以上削減命令	

資料：環境省

表 都内多摩中部地域における光化学スモッグ発令状況の推移 (単位:日)

		学校情報	注意報	警報
平成27年度		19	8	0
28		8	3	0
29		9	1	0
30		16	4	0
令和元年度		8	3	0
2		7	1	0
3		9	2	0
4		8	3	0
5		7	3	0
6		15	8	0

資料：東京都環境局

表 光化学オキシダントの環境基準適合状況

		1時間値が 0.06ppmを 超えた日数 (日)	1時間値が 0.12ppm以上の日数 (日)	環境基準 適合状況
一般局	東京都全域	—	—	—
	都立農業高校神代農場	—	—	—
	市役所屋上測定局	108	8	×
自排局	東京都全域	—	—	—
	下石原交差点前測定局	90	7	×

資料：環境政策課

表 令和5年度の光化学オキシダント月別変化（都立農業高等学校神代農場）

測定地点		都立農業高等学校神代農場								
測定項目		昼間の測定日数	昼間の測定時間	昼間の1時間値の月平均値	昼間の1時間値の最高値	昼間の日最高1時間値の月間平均値	昼間の1時間値>0.06ppm日数	昼間の1時間値>0.06ppm時間数	昼間の1時間値≥0.12ppm日数	昼間の1時間値≥0.12ppm時間数
		(日)	(時間)	(ppm)	(ppm)	(ppm)	(日)	(時間)	(日)	(時間)
令和5年	4月	30	445	0.045	0.080	0.057	12	56	0	0
	5月	31	461	0.044	0.117	0.060	12	75	0	0
	6月	30	447	0.042	0.109	0.060	16	81	0	0
	7月	31	462	0.043	0.152	0.070	17	84	3	7
	8月	31	460	0.021	0.088	0.038	6	14	0	0
	9月	30	446	0.028	0.086	0.046	6	24	0	0
	10月	31	460	0.032	0.069	0.049	4	9	0	0
	11月	30	446	0.026	0.082	0.042	1	7	0	0
	12月	31	461	0.021	0.051	0.037	0	0	0	0
令和6年	1月	30	436	0.024	0.045	0.035	0	0	0	0
	2月	28	403	0.030	0.048	0.041	0	0	0	0
	3月	31	461	0.038	0.074	0.050	5	35	0	0
年 計		364	5,388	0.033	0.117	0.048	79	385	3	7

※ 令和6年度分データの東京都データは作成時未公表

資料：東京都環境局

表 令和6年度の光化学オキシダント月別変化（市役所屋上測定局）

測定地点		市役所屋上測定局								
測定項目		昼間の測定日数	昼間の測定時間	昼間の1時間値の月平均値	昼間の1時間値の最高値	昼間の日最高1時間値の月間平均値	昼間の1時間値>0.06ppm日数	昼間の1時間値>0.06ppm時間数	昼間の1時間値≥0.12ppm日数	昼間の1時間値≥0.12ppm時間数
		(日)	(時間)	(ppm)	(ppm)	(ppm)	(日)	(時間)	(日)	(時間)
令和6年	4月	30	448	0.046	0.106	0.060	13	60	0	0
	5月	31	463	0.048	0.097	0.062	12	67	0	0
	6月	29	445	0.050	0.127	0.069	21	112	1	1
	7月	31	462	0.052	0.155	0.084	23	143	5	12
	8月	31	463	0.038	0.150	0.062	13	74	2	5
	9月	30	449	0.035	0.112	0.055	11	47	0	0
	10月	30	460	0.031	0.065	0.043	3	5	0	0
	11月	30	448	0.028	0.053	0.040	0	0	0	0
	12月	29	452	0.024	0.047	0.038	0	0	0	0
令和7年	1月	31	463	0.028	0.053	0.039	0	0	0	0
	2月	28	418	0.035	0.065	0.047	2	3	0	0
	3月	31	463	0.044	0.081	0.057	10	63	0	0
年 計		361	5,434	0.038	0.155	0.055	108	574	8	18

資料：環境政策課

表 令和6年度の光化学オキシダント月別変化（下石原交差点前測定局）

測定地点		下石原交差点前測定局								
測定項目		昼間の測定日数	昼間の測定時間	昼間の1時間値の月平均値	昼間の1時間値の最高値	昼間の日最高1時間値の月間平均値	昼間の1時間値>0.06ppm日数	昼間の1時間値>0.06ppm時間数	昼間の1時間値≥0.12ppm日数	昼間の1時間値≥0.12ppm時間数
		(日)	(時間)	(ppm)	(ppm)	(ppm)	(日)	(時間)	(日)	(時間)
令和6年	4月	30	448	0.041	0.105	0.056	11	47	0	0
	5月	30	455	0.043	0.092	0.058	11	47	0	0
	6月	30	448	0.046	0.097	0.065	18	79	0	0
	7月	31	462	0.047	0.144	0.079	21	117	4	7
	8月	31	462	0.033	0.138	0.056	10	54	3	5
	9月	30	448	0.030	0.098	0.049	7	30	0	0
	10月	31	464	0.026	0.059	0.038	0	0	0	0
	11月	29	444	0.024	0.051	0.036	0	0	0	0
	12月	31	462	0.021	0.044	0.036	0	0	0	0
令和7年	1月	31	463	0.025	0.049	0.037	0	0	0	0
	2月	28	417	0.033	0.061	0.045	1	1	0	0
	3月	31	463	0.040	0.078	0.053	10	51	0	0
年 計		363	5,436	0.034	0.144	0.050	89	426	7	12

※ 下石原交差点前測定局は借用地整備のため、平成27年3月から平成29年5月まで未計測

資料：環境政策課

表 光化学オキシダントの昼間の1時間値の年平均値の推移

(単位: ppm)

	(一般局)			(自排局)
	東京都全域	都立農業高校 神代農場	市役所屋上 測定局	下石原交差点前 測定局
平成27年度	0.031	0.030	0.035	—
28	0.031	0.031	0.034	—
29	0.032	0.031	0.035	0.029
30	0.032	0.032	0.035	0.032
令和元年度	0.032	0.032	0.033	0.032
2	0.031	0.031	0.030	0.028
3	0.033	0.032	0.034	0.032
4	0.047	0.047	0.033	0.030
5	0.034	0.033	0.034	0.031
6	—	—	0.038	0.034

資料:環境政策課・東京都環境局

表 光化学オキシダントの昼間の1時間値が0.06ppmを超えた日数の推移

(単位: 日)

	一般局		自排局
	都立農業高校神代農場	市役所屋上測定局	下石原交差点前測定局
平成27年度	79	113	—
28	70	90	—
29	82	105	59
30	77	97	82
令和元年度	79	90	71
2	71	86	83
3	71	77	63
4	63	71	56
5	79	77	63
6	—	106	90

資料:環境政策課・東京都環境局

表 光化学オキシダントの昼間の1時間値が0.12ppmを超えた日数の推移

(単位：日)

	一般局		自排局
	都立農業高校神代農場	市役所屋上測定局	下石原交差点前測定局
平成27年度	8	10	—
28	2	4	—
29	1	1	1
30	3	5	4
令和元年度	5	4	3
3	3	2	2
4	4	3	3
5	3	3	3
6	—	8	7

資料：環境政策課・東京都環境局

表 移動測定 光化学オキシダントの昼間の1時間値の平均値

(単位：ppm)

	仙川二丁目交差点				総合体育館				多摩川一丁目鶴川街道			
	春季	夏季	秋季	春季	夏季	秋季	冬季	冬季	春季	夏季	秋季	冬季
平成22	—	—	—	0.009	—	—	—	0.012	—	—	—	0.008
23	—	—	—	0.021	—	—	—	0.017	—	—	—	0.013
24	—	—	—	0.022	—	—	—	0.021	—	—	—	0.016

※ 平成25年度から未計測

資料：環境政策課

炭化水素（HC）

- 非メタン炭化水素（NMHC）は揮発性有機化合物（VOC）に属する一物質であり、自動車や工場などから排出され、光化学オキシダントの原因物質となります。
- 調布市のNMHC濃度については、増減はあるものの緩やかに減少傾向を示しています。

表 非メタン炭化水素（NMHC）6～9時の年平均値

(単位: ppmC)

		午前6時から9時の3時間平均値 ※大気中炭化水素濃度の指針: 0.20ppmCから0.31ppmCの範囲 (ppmC)	適合状況
一般局	東京都全域	0.12	○
	都立農業高校神代農場	0.12	○
自排局	東京都全域	0.12	○

資料: 東京都環境局

表 非メタン炭化水素（NMHC）6～9時の年平均値と日数の推移

(単位: ppmC)

	都立農業高校神代農場		参考	
	6～9時の年平均値 (ppmC)	6～9時3時間平均値が 0.31ppmCを超えた日数	東京都全域の6～9時の年平均値	
			一般局 (ppmC)	自排局 (ppmC)
平成26年	0.16	15	0.17	0.22
27	0.17	9	0.16	0.21
28	0.14	9	0.14	0.19
29	0.12	8	0.13	0.19
30	0.11	5	0.12	0.16
令和元年	0.10	1	0.11	0.15
2	0.11	2	0.11	0.14
3	0.11	0	0.11	0.13
4	0.12	2	0.12	0.13
5	0.12	3	0.12	0.12

資料: 東京都環境局

表 メタン (CH₄) 濃度の1時間値の年平均値の推移

(単位: ppmC)

	一般局			自排局	
	都立農業高校 神代農場	多摩部平均	都内平均	多摩部平均	都内平均
平成26年	1.92	1.94	1.96	1.95	1.98
27	1.93	1.95	1.96	1.96	1.98
28	1.94	1.95	1.97	1.97	1.99
29	1.94	1.94	1.97	1.97	2.00
30	1.95	1.95	1.94	1.94	1.96
令和元年	1.98	1.97	1.97	1.97	1.98
2	1.98	1.98	1.99	1.98	2.00
3	2.01	2.00	2.01	1.99	2.01
4	2.03	2.01	2.03	2.02	2.03
5	2.03	2.02	2.04	2.03	2.04

資料：東京都環境局

(2) 微小粒子状物質

① 微小粒子状物質に係る環境基準

表 大気汚染に係る環境基準

	環境基準	評価方法
微小粒子状物質 (PM2.5)	1年平均値が $15\mu\text{g}/\text{m}^3$ 以下であり、かつ、1日平均値が $35\mu\text{g}/\text{m}^3$ 以下であること。	「長期基準に関する評価」及び「短期基準に関する評価」を各々行い、両方を満足した場合に達成されたと評価する。 長期的評価：1年平均値を環境基準と比較して行う。 短期的評価：年間の1日平均値のうち、低い方から98%に相当するもの（98%値）を、環境基準と比較して評価する。

資料：環境省

② 調査結果

- 東京都環境局及び調布市では、平成25年度から微小粒子状物質（PM2.5）の測定を行っています。微小粒子状物質は、長期基準、短期基準共に環境基準に適合していました。

表 微小粒子状物質の環境基準適合状況

		長期評価		短期評価		
		年平均値が $15\mu\text{g}/\text{m}^3$ 以下 ($\mu\text{g}/\text{m}^3$)	環境基準 適合状況	日平均値の年間 98%値 ($\mu\text{g}/\text{m}^3$)	日平均値が $35\mu\text{g}/\text{m}^3$ を 超えた日数 (日)	環境基準 適合状況
一般局	都立農業高校神代農場	7.6	○	17.5	0	○
自排局	下石原交差点前測定局	8.0	○	19.6	0	○

資料：環境政策課・東京都環境局

表 令和5年度 都立農業高等学校神代農場 調査結果

測定地点		都立農業高等学校神代農場						
測定項目		有効測定日数	測定時間	月平均値	日平均値が35μg/m ³ を超えた日数	1時間値の最高値	日平均値の最高値	日平均値の98%値
		(日)	(時間)	(μg/m ³)	(日)	(μg/m ³)	(μg/m ³)	(μg/m ³)
令和5年	4月	30	717	9.3	0	33	18.1	—
	5月	28	696	8.3	0	44	23.5	—
	6月	30	718	9.8	0	30	17.5	—
	7月	31	741	10.6	0	28	18.1	—
	8月	31	740	7.2	0	24	14.8	—
	9月	30	717	7.6	0	27	15.8	—
	10月	31	740	6.8	0	18	11.2	—
	11月	30	717	8.3	0	39	24.2	—
	12月	28	687	7.2	0	42	14.3	—
令和6年	1月	31	726	5.1	0	69	16.1	—
	2月	29	686	4.7	0	23	11.2	—
	3月	31	736	6.2	0	39	17.8	—
年 計		360	8,621	7.6	0	69	24.2	17.5

※ 令和6年度分データの東京都データは作成時未公表

資料：東京都環境局

表 令和6年度 下石原交差点前測定局 調査結果

測定地点		下石原交差点前測定局						
測定項目		有効測定日数	測定時間	月平均値	日平均値が35μg/m ³ を超えた日数	1時間値の最高値	日平均値の最高値	日平均値の98%値
		(日)	(時間)	(μg/m ³)	(日)	(μg/m ³)	(μg/m ³)	(μg/m ³)
令和6年	4月	30	719	10.7	0	39	24.2	—
	5月	31	743	7.4	0	20	15.2	—
	6月	27	690	8.1	0	35	21.8	—
	7月	31	742	13.0	0	35	24.2	—
	8月	31	743	7.6	0	25	15.1	—
	9月	30	719	7.5	0	21	15.8	—
	10月	31	742	7.9	0	24	13.5	—
	11月	30	719	7.3	0	20	15.8	—
	12月	31	741	5.3	0	28	11.3	—
	1月	31	743	6.2	0	25	13.5	—
	2月	28	671	6.1	0	28	16.3	—
	3月	31	742	9.4	0	77	27.1	—
年 計		362	8,714	8.0	0	77	27.1	19.6

資料：環境政策課

表 令和6年度 つつじヶ丘児童館 調査結果

(単位: $\mu\text{g}/\text{m}^3$)

	2/11	2/12	2/13	2/14	2/15	2/16	2/17
最小値	-3	-2	-6	-3	0	1	-5
最大値	12	15	21	11	9	21	15
1日平均値	4.4	6.6	9.3	3.8	4.7	9.8	6.7
環境基準適合状況	○	○	○	○	○	○	○
期間平均値				6.5			
環境基準適合状況				○			

資料: 環境政策課

表 令和6年度 深大寺児童館 調査結果

(単位: $\mu\text{g}/\text{m}^3$)

	2/19	2/20	2/21	2/22	2/23	2/24	2/25
最小値	-8	-4	-4	-3	-6	-2	-2
最大値	10	9	9	9	8	11	10
1日平均値	1.4	2.5	1.2	3.1	1.6	3.3	3.4
環境基準適合状況	○	○	○	○	○	○	○
期間平均値				2.4			
環境基準適合状況				○			

資料: 環境政策課

表 令和6年度 多摩川一丁目鶴川街道 調査結果

(単位: $\mu\text{g}/\text{m}^3$)

	2/1	2/2	2/3	2/4	2/5	2/6	2/7
最小値	3	4	1	-2	-3	-3	-3
最大値	32	23	25	12	18	12	9
1日平均値	14.1	12.3	11.1	5.4	4.4	4.8	4.1
環境基準適合状況	○	○	○	○	○	○	○
期間平均値				8.0			
環境基準適合状況				○			

資料: 環境政策課

3 水

(1) 河川

① 水質汚濁に係る環境基準

表 生活環境の保全に関する環境基準（環境基本法）

水域類型	利用目的の適応性	基準値					調布市の河川
		水素イオン濃度(pH)	生物化学的酸素要求量(BOD)	浮遊物質量(SS)	溶存酸素量(DO)	大腸菌数	
AA	水道1級, 自然環境保全, 及びA以下の欄に掲げるもの	6.5以上 8.5以下	1mg/L 以下	25mg/L 以下	7.5mg/L 以上	20CFU/ 100mL以下	
A	水道2級, 水産1級, 水浴, 及びB以下の欄に掲げるもの	6.5以上 8.5以下	2mg/L 以下	25mg/L 以下	7.5mg/L 以上	300CFU/ 100mL以下	
B	水道3級, 水産2級, 及びC以下の欄に掲げるもの	6.5以上 8.5以下	3mg/L 以下	25mg/L 以下	5mg/L 以上	1,000CFU/ 100mL以下	○ 多摩川
C	水産3級, 工業用水1級, 及びD以下の欄に掲げるもの	6.5以上 8.5以下	5mg/L 以下	50mg/L 以下	5mg/L 以上	—	
D	工業用水2級, 農業用水, 及びEの欄に掲げるもの	6.0以上 8.5以下	8mg/L 以下	100mg/L 以下	2mg/L 以上	—	○ 野川 仙川

<利用目的凡例>

1	自然環境保全	自然探勝等の環境保全
2	水道	1級：ろ過等による簡易な浄水操作を行うもの 2級：沈殿ろ過等による通常の浄水操作を行うもの 3級：前処理等を伴う高度の浄水操作を行うもの
3	水産	1級：ヤマメ, イワナ等貧腐水性水域の水産生物用並びに水産2級及び水産3級の水産生物用 2級：サケ科魚類及びアユ等貧腐水性水域の水産生物用及び水産3級の水産生物用 3級：コイ, フナ等, β -中腐水性水域の水産生物用
4	工業用水	1級：沈殿等による通常の浄水操作を行うもの 2級：薬品注入等による高度の浄水操作を行うもの 3級：特殊の浄水操作を行うもの
5	環境保全	国民の日常生活(沿岸の遊歩等を含む。)において不快感を生じない限度

表 生活環境の保全に関する環境基準（環境基本法）

類型	水生生物の生息状況の適応性	基準値		
		全亜鉛	ノニルフェノール	直鎖アルキルベンゼンスルホン酸及びその塩
生物A	イワナ, サケマス等比較的低温域を好む水生生物及びこれらの餌生物が生息する水域	0.03mg/L 以下	0.001mg/L 以下	0.03mg/L 以下
生物特A	生物Aの水域のうち, 生物Aの欄に掲げる水生生物の産卵場（繁殖場）又は幼稚仔の生育場として特に保全が必要な水域	0.03mg/L 以下	0.0006mg/L 以下	0.02mg/L 以下
生物B	コイ, フナ等比較的高温域を好む水生生物及びこれらの餌生物が生息する水域	0.03mg/L 以下	0.002mg/L 以下	0.05mg/L 以下
生物特B	生物A又は生物Bの水域のうち, 生物Bの欄に掲げる水生生物の産卵場（繁殖場）又は幼稚仔の生育場として特に保全が必要な水域	0.03mg/L 以下	0.002mg/L 以下	0.04mg/L 以下
生物A	イワナ, サケマス等比較的低温域を好む水生生物及びこれらの餌生物が生息する水域	0.03mg/L 以下	0.001mg/L 以下	0.03mg/L 以下

資料：環境省

表 人の健康の保護に関する環境基準(環境基本法)

項目	基準値
カドミウム	0.003mg/L以下
全シアン	検出されないこと。
鉛	0.01mg/L以下
六価クロム	0.02mg/L以下※3
砒素	0.01mg/L以下
総水銀	0.0005mg/L以下
アルキル水銀	検出されないこと。
PCB	検出されないこと。
ジクロロメタン	0.02mg/L以下
四塩化炭素	0.002mg/L以下
1,2-ジクロロエタン	0.004mg/L以下
1,1-ジクロロエチレン	0.1mg/L以下※1
シス-1,2-ジクロロエチレン	0.04mg/L以下

※1 平成21年に0.02mg/Lから0.1mg/Lに変更

※2 平成26年に0.03mg/Lから0.01mg/Lに変更

※3 令和4年に0.05mg/Lから0.02mg/Lに変更

項目	基準値
1,1,1-トリクロロエタン	1mg/L以下
1,1,2-トリクロロエタン	0.006mg/L以下
トリクロロエチレン	0.01mg/L以下※2
テトラクロロエチレン	0.01mg/L以下
1,3-ジクロロプロペン	0.002mg/以下
チウラム	0.006mg/L以下
シマジン	0.003mg/L以下
チオベンカルブ	0.02mg/L以下
ベンゼン	0.01mg/L以下
セレン	0.01mg/L以下
硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素	10mg/L以下
ふつ素	0.8mg/L以下
ほう素	1mg/L以下
1,4-ジオキサン	0.05mg/L以下

資料：環境省

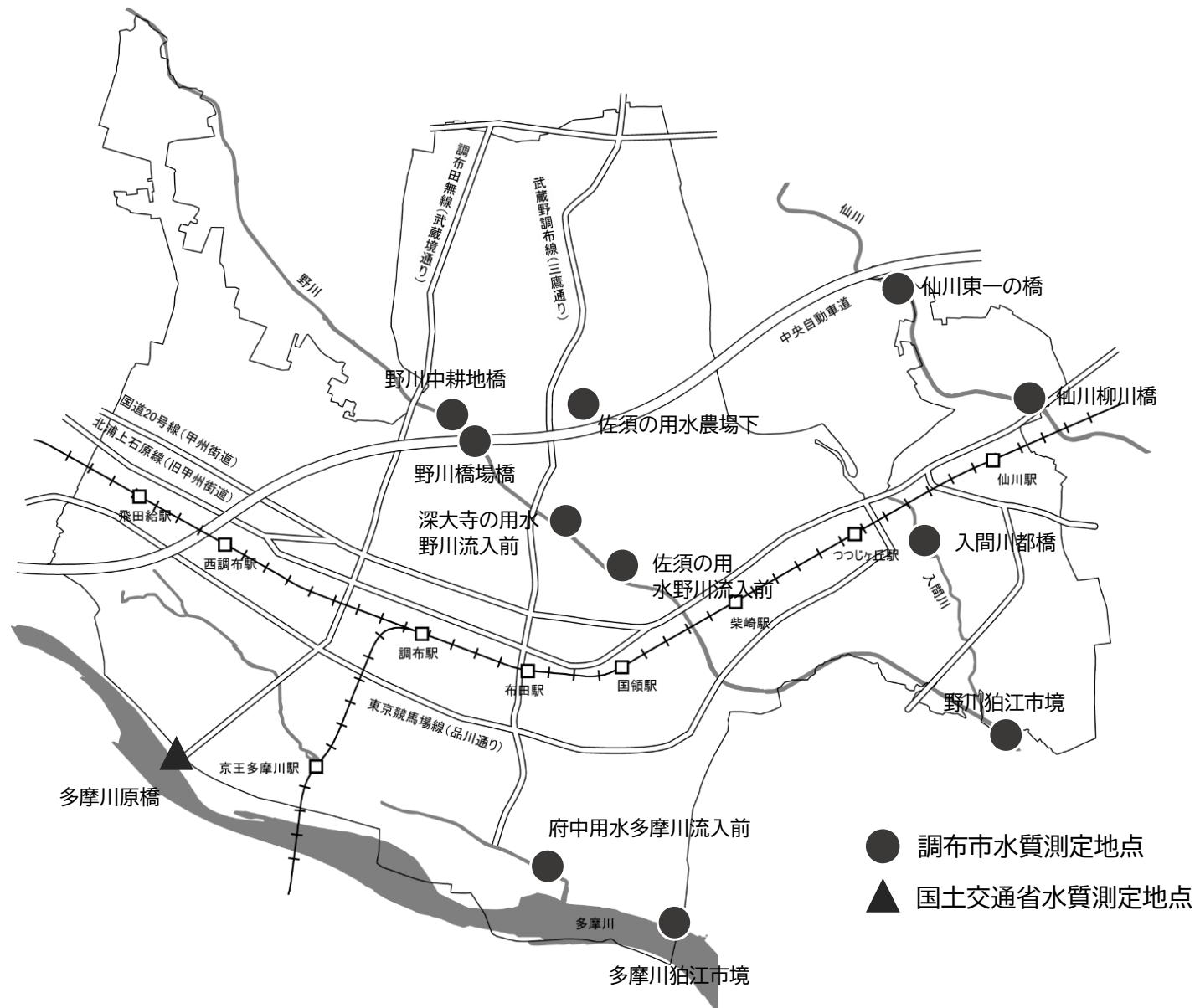


図 河川水質測定地点図

② 調査結果

多摩川（類型B）

- 令和6年度の調査結果を見ると、多摩川原橋地点では、大腸菌数を除く生活環境項目の環境基準を満たしています。令和4年度から大腸菌群数を調査項目から除外し、新たに大腸菌数が追加されました。

表 令和6年度測定結果

生活環境項目	環境基準	地点	測定結果
pH	6.5以上 8.5以下	多摩川原橋	7.48
		狛江市境	7.65
DO (mg/L)	5mg/L以上	多摩川原橋	8.56
		狛江市境	9.25
BOD (mg/L)	3mg/L以下	多摩川原橋	1.73
		狛江市境	0.95
SS (mg/L)	25mg/L以下	多摩川原橋	3
		狛江市境	2.5
大腸菌数 (CFU/100mL)	100CFU/100mL 以下	多摩川原橋	3,331
		狛江市境	1115

※ 令和4年度から大腸菌群数
から大腸菌数に調査変更

資料：環境政策課、国土交通省

表 令和6年度測定結果（多摩川原橋）

測定月日	4/17	5/8	6/5	7/3	8/23	9/11	10/2	11/6	12/4	1/8	2/5	3/7	平均
現場測定項目	流量 (m ³ /s)	20.42	16.12	42.53	40.94	37.95	81.03	18.03	49.73	16.01	16.14	12.97	16.72
	全水深 (m)	1.6	1.49	1.76	1.83	1.75	3.56	2.77	2.54	2.93	3.06	2.61	3.15
	気温 (°C)	23.8	20.4	29.2	32.0	29.0	30.0	28.8	14.0	9.0	3.2	0.8	6.8
	水温 (°C)	20.3	19.9	23.8	24.1	25.0	23.3	25.2	16.6	16.5	11.0	10.5	10.5
生活環境項目	透視度 (cm)	>100	>100	80.7	>100	>100	>100	>100	>100	>100	>100	>100	98.4
	pH	7.8	7.1	7.9	8.1	7.5	7.5	7.5	7.4	7.4	7.2	7.1	7.3
	DO (mg/L)	10.0	8.4	9.1	10.0	7.3	8.8	8.3	8.7	8.3	8.9	8.9	8.86
	BOD (mg/L)	1.6	1.7	1.6	1.6	1.0	1.2	1.4	1.4	1.5	2.6	3.0	2.2
	COD (mg/L)	3.7	3.6	3.4	2.8	2.9	2.2	3.8	2.2	3.3	3.9	4.2	4.4
	SS (mg/L)	4	3	9	2	3	2	2	3	2	2	2	3
大腸菌数 (CFU/100mL)		830	1800	900	280	5,300	7,800	6,700	8,000	760	4,700	1,500	1,400
													3,331

資料：国土交通省

表 測定結果（経年変化）（多摩川原橋）

	BOD (mg/L)	DO (mg/L)	SS (mg/L)	大腸菌群数 (MPN/100mL)	大腸菌数 (CFU/100mL)
平成27年度	1.5	8.2	2	22,900	—
28	1.7	8.2	3	22,000	—
29	1.7	8.3	2	18,500	—
30	1.3	7.8	3	21,000	—
令和元年度	1.5	9.4	2	15,000	—
2	1.4	9.2	5	17,500	—
3	1.5	9.4	2.5	4,200	—
4	1.7	9	5	—	960
5	1.6	9.4	3	—	4,466
6	1.73	8.86	3	—	3,331

資料：国土交通省

表 令和6年度測定結果（狛江市境）

区分	採水月日（月/日）	6/6	11/7	平均
現場測定項目	流量 (m ³ /s)	26.7	35.2	31.0
	当日天候	曇	晴れ	—
	前日天候	晴れ	曇	—
	前々日天候	晴れのち 雨	曇	—
	気温 (°C)	25.0	20.0	22.5
	水温 (°C)	22.2	17.0	19.6
	色相 (m ³ /s)	淡黄色	淡黄色	—
	臭気	弱下水臭	弱下水臭	—
	透視度 (cm)	>50.0	>50.0	—
	pH	7.8	7.5	7.65
生活環境項目	DO (mg/L)	8.9	9.6	9.25
	BOD (mg/L)	0.9	1.0	0.95
	COD (mg/L)	2.4	2.1	2.25
	SS (mg/L)	4	1	2.5
	大腸菌数 (CFU/100mL)	1700	530	1115
	全窒素 (mg/L)	3.27	3.25	3.26
	全りん (mg/L)	0.282	0.243	0.2625
項目健康	全シアン (mg/L)	—	—	—
	鉛 (mg/L)	<0.002	<0.002	—
	全クロム (mg/L)	<0.02	<0.02	—
その他項目	MBAS (mg/L)	<0.02	<0.02	—
	アンモニア性窒素 (mg/L)	<0.01	<0.01	—
	硝酸性窒素及び亜硝酸性窒 (mg/L)	—	3.0	—
	りん酸性りん (mg/L)	0.246	0.229	0.238
	電気伝導率 (mS/m)	17.8	14.6	16.2

表 測定結果（経年変化）（狛江市境）

	BOD (mg/L)	DO (mg/L)	SS (mg/L)	大腸菌群数 (MPN/100mL)	大腸菌数 (CFU/100mL)
平成27年度	1.1	10.7	2	20,500	—
28	0.9	11.1	3	15,000	—
29	1.5	9.0	2	28,450	—
30	2.0	9.6	3	3,100	—
令和元年度	1.1	9.9	2	2,550	—
2	1.2	9.3	5	12,500	—
3	0.75	11.5	2.5	1,800	—
4	0.9	9.55	7.55	—	450
5	1.1	9.95	2.5	—	490
6	0.95	9.25	2.5	—	1115

資料：環境政策課

【水生生物の保全に係る水質環境基準】

- 水質汚濁に係る環境基準は、「人の健康の保護に関する環境基準（健康項目）」と「生活環境の保全に関する環境基準（生活環境項目）」があり、生活環境項目には、水生生物の保全に係る水質環境基準（水生生物保全環境基準）が定められています。
- 水環境における生態系の保護、生物多様性の確保等の観点から、現在、環境基準として「全亜鉛」、「ノニルフェノール」、「直鎖アルキルベンゼンゼンスルホン酸及びその塩」の3項目が定められています。
- 多摩川の拝島橋から下流については、平成18年6月30日からB類型指定されており、令和6年度はすべての項目の環境基準に適合しています。

表 多摩川（狛江市境）水生生物の保全に係る水質環境基 調査結果

項目	基準値	採水日
		6/6
ノニルフェノール	0.002mg/L 以下	<0.00006
L A S	0.05mg/L 以下	<0.0006
全亜鉛	0.03mg/L 以下	0.010



図 多摩川水系流域における調査点図

出典：令和5年度東京湾環境一斉調査 調査結果

野川（類型B）

- 過去の野川の水質の推移を見ると、BODについては、昭和63年に、環境基準を超える数値を確認していますが、その後のBOD値と、DO, SSについては、指定された水域類型「D」の環境基準を達成し、より厳しい水域類型の基準も達成しています。
- 令和6年度は、大腸菌数を除くすべての生活環境項目の環境基準に適合しています。

表 令和6年度測定結果

生活環境項目	環境基準	地点	測定結果
pH	6.5以上	橋場橋	7.5
	8.5以下	泊江市境	7.7
DO (mg/L)	5mg/L以上	橋場橋	9.5
		泊江市境	10.4
BOD (mg/L)	3mg/L以下	橋場橋	0.6
		泊江市境	0.8
SS (mg/L)	25mg/L以下	橋場橋	6.3
		泊江市境	8.3
大腸菌数 (CFU/100mL)	100CFU/100mL 以下	橋場橋	922
		泊江市境	544

資料：環境政策課

表 令和6年度測定結果（橋場橋）

区分	採水月日（月/日）	7/11	9/5	11/13	2/19	平均
現場測定項目	流量 (m ³ /s)	0.313	1.145	0.474	0.060	0.498
	当日天候	曇	晴れ	晴	晴れ	—
	前日天候	曇	晴れ	晴時々曇	晴後時々曇	—
	前々日天候	曇	曇時々雨	曇時々晴	晴後時々曇一時雨	—
	気温 (°C)	28.1	28.2	15.5	3.9	18.9
	水温 (°C)	23.1	22.3	16.9	4.8	16.77
	色相 (m ³ /s)	淡緑色透明	淡緑色透明	淡灰色透明	淡灰緑色透明	—
	臭気	弱藻臭	弱藻臭	弱藻臭	弱藻臭	—
	透視度 (cm)	79.0	68.0	79.5	>100	81.6
	pH	7.4	7.4	7.7	7.6	7.5
生活環境項目	DO (mg/L)	7.9	9.4	10.2	10.7	9.5
	BOD (mg/L)	>0.5	1.1	0.6	0.7	0.6
	COD (mg/L)	—	—	—	—	—
	SS (mg/L)	5	12	6	2	6.3
	大腸菌数 (CFU/100mL)	630	2,800	180	79	922
	全窒素 (mg/L)	3.09	4.39	5.38	4.45	4.33
	全りん (mg/L)	0.036	0.042	0.022	0.015	0.029
	MBAS (mg/L)	<0.02	—	—	—	<0.02
その他項目	硝酸性窒素及び亜硝酸性窒 (mg/L)	—	4.2	4.8	3.9	4.3
	電気伝導率 (mS/m)	19	20	21	19	19.8

表 測定結果（経年変化）（橋場橋）

	BOD (mg/L)	DO (mg/L)	SS (mg/L)
平成27年度	0.7	9.6	5
28	1.5	9.1	4
29	0.7	8.5	5
30	1.0	9.2	3
令和元年	1.7	8.8	7
2	1.0	9.6	6
3	1.2	9.4	5
4	1.0	9.5	3
5	1.25	8.7	5
6	0.6	9.5	6.3

資料：環境政策課

資料：環境政策課

表 令和6年度測定結果（泊江市境）

区分	採水月日（月/日）	6/6	9/5	11/7	2/19	平均
現場測定項目 一般項目	流量 (m ³ /s)	0.26	1.622	0.494	0.080	0.614
	当日天候	曇	晴れ	晴れ	晴れ	—
	前日天候	晴れ	晴れ	曇	晴後時々曇	—
	前々日天候	晴れのち雨	曇時々雨	曇	晴後時々曇一時雨	—
	気温 (°C)	25.8	34.0	15.8	10.0	21.4
	水温 (°C)	22.0	27.5	14.8	10.5	18.7
	色相 (m ³ /s)	中灰黄濁色	淡綠色透明	淡黃色	淡灰綠色透明	—
	臭気	中藻臭	弱藻臭	弱藻臭	弱藻臭	—
	透視度 (cm)	39	92	>50	>100	33
	pH	7.1	7.5	7.1	7.5	7.7
生活環境項目	DO (mg/L)	8.8	9.6	10.0	13.2	10.4
	BOD (mg/L)	0.9	1.1	1.1	<0.5	0.8
	COD (mg/L)	2.6	—	2.0	—	2.3
	SS (mg/L)	19	8	4	2	8.3
	大腸菌数 (CFU/100mL)	1200	660	310	6	544
	全窒素 (mg/L)	2.48	4.36	5.10	3.81	3.94
	全りん (mg/L)	0.050	0.042	0.022	0.013	0.032
	全シアン (mg/L)	—	—	—	—	—
項目健康	鉛 (mg/L)	<0.002	—	<0.002	—	<0.002
	全クロム (mg/L)	<0.02	—	<0.02	—	<0.02
その他項目	MBAS (mg/L)	<0.02	<0.02	<0.02	—	<0.02
	アンモニア性窒素 (mg/L)	0.02	—	0.01	—	0.015
	硝酸性窒素及び亜硝酸性窒 (mg/L)	2.3	—	4.8	5.3	3.1
	りん酸性りん (mg/L)	0.011	—	0.003	—	0.007
	電気伝導率 (mS/m)	17.1	22	15.7	19	18.45
	フェノール類 (mg/L)	<0.5	—	—	—	<0.5
	一般細菌 (個/mL)	2200	—	—	—	2200

表 測定結果（経年変化）（泊江市境）

	BOD (mg/L)	DO (mg/L)	SS (mg/L)
平成27年度	2.3	10.6	8
28	1.4	10.8	3
29	2.3	9.6	10
30	0.7	9.9	2
令和元年度	3.0	9.4	6
2	1.0	10.4	4
3	1.8	11.5	7.5
4	0.6	10.1	3.3
5	1.2	12.175	2.5
6	0.8	10.4	8.3

資料：環境政策課

資料：環境政策課

コラム 多摩川水系水質監視連絡協議会

- ・多摩川水系水質監視連絡協議会は、昭和59年度に多摩川の水質浄化を図るため、東京都側の多摩川流域19区市が相互に協力することを目的に発足
- ・年2回の河川水質の合同一斉調査を行い、その結果を多摩川及び関連河川水質合同調査結果報告書として発行
- ・狛江市境を調査地点として調査実施



多摩川における調査地点図

仙川（類型D）

- 令和6年度について、水域類型「D」の環境基準を達成し、より厳しい水域類型の基準も達成しています。過去の仙川の水質の推移を見ると、BODについては平成13年度以降、水域類型「D」基準を達成しています。

表 令和6年度測定結果

生活環境項目	環境基準	地点	測定結果
pH	6.0以上	東一の橋	7
	8.5以下	柳川橋	7.03
DO (mg/L)	2mg/L以上	東一の橋	9.5
		柳川橋	7.23
BOD (mg/L)	8mg/L以下	東一の橋	0.68
		柳川橋	5.17
SS (mg/L)	25mg/L以下	東一の橋	3.75
		柳川橋	3

資料：環境政策課

表 令和6年度測定結果（東一の橋）

区分	採水月日（月/日）	7/11	9/5	11/13	2/19	平均
現場測定項目	流量 (m ³ /s)	0.313	0.458	0.211	0.08	0.266
	当日天候	曇	曇時々雨	晴れ	晴れ	—
	前日天候	曇	晴れ	晴時々曇	晴後時々曇	—
	前々日天候	曇	晴れ	曇時々晴	晴後時々曇一時雨	—
	気温 (°C)	29.7	30.6	19.0	9.8	22.3
	水温 (°C)	23.1	24.0	19.8	12.6	19.9
	色相 (m ³ /s)	淡緑色透明	淡緑色透明	淡緑色透明	淡灰緑色透明	—
	臭氣	弱藻臭	弱藻臭	弱藻臭	弱藻臭	—
	透視度 (cm)	79	98	>100	>100	94
	pH	7.4	6.8	6.7	7.1	7
生活環境項目	DO (mg/L)	7.9	9.4	8.9	11.8	9.5
	BOD (mg/L)	<0.5	1.2	<0.5	<0.5	0.68
	COD (mg/L)	—	—	—	—	—
	SS (mg/L)	5	2	6	2	3.75
	大腸菌数 (CFU/100mL)	630	630	170	95	381
	全窒素 (mg/L)	3.09	5.34	5.63	6.28	5.09
	全りん (mg/L)	0.036	0.025	0.031	0.008	0.025
	MBAS (mg/L)	<0.02	—	—	—	<0.02
その他項目	硝酸性窒素及び亜硝酸性窒 (mg/L)	—	5.4	5.0	2.9	3.33
	電気伝導率 (mS/m)	19.0	24	23	19	21.25

表 測定結果（経年変化）（東一の橋）

	BOD (mg/L)	DO (mg/L)	SS (mg/L)
平成27年度	0.7	11.2	5
28	1.1	10.1	3
29	0.8	10.9	3
30	0.6	9.7	3
令和元年	1.5	8.1	3
2	0.9	9.7	3
3	1.0	11.1	4
4	0.6	9.5	3
5	1.1	11.85	6
6	0.68	9.5	3.75

資料：環境政策課

資料：環境政策課

表 令和6年度測定結果（柳川橋）

区分	採水月日（月/日）	6/6	9/5	11/7	2/19	平均
現場測定項目 一般項目	流量 (m ³ /s)	0.426	1.062	0.418	—	0.63
	当日天候	曇	曇時々雨	晴れ	—	—
	前日天候	晴れ	晴れ	曇	—	—
	前々日天候	晴後雨	晴れ	曇	—	—
	気温 (°C)	26.0	31.7	14.3	—	24
	水温 (°C)	22.9	27.1	18.9	—	23
	色相 (m ³ /s)	淡黄色	淡緑色透明	淡黄色	—	—
	臭気	中下水臭	弱下水臭	中下水臭	—	—
	透視度 (cm)	>50	46	>50	—	49
	pH	7.0	7.1	7.0	—	7.03
生活環境項目	DO (mg/L)	8.0	5.9	7.8	—	7.23
	BOD (mg/L)	1.9	12	1.6	—	5.17
	COD (mg/L)	4.2	—	4.0	—	4.1
	SS (mg/L)	2	5	2	—	3
	大腸菌数 (CFU/100mL)	2	710000	2	—	236668
	全窒素 (mg/L)	6.84	—	7.73	—	4.86
	全りん (mg/L)	0.097	0.632	0.127	—	0.29
	全シアン (mg/L)	—	—	—	—	—
項目健康	鉛 (mg/L)	<0.002	—	<0.002	—	<0.002
	全クロム (mg/L)	<0.02	—	<0.02	—	<0.02
	MBAS (mg/L)	<0.02	—	<0.02	—	<0.02
その他項目	アンモニア性窒素 (mg/L)	0.85	—	1.0	—	0.62
	硝酸性窒素及び亜硝酸性窒 (mg/L)	5.2	—	6.1	—	3.77
	りん酸性りん (mg/L)	0.043	—	0.127	—	0.057
	電気伝導率 (mS/m)	20.0	30	21.7	—	23.9

表 測定結果（経年変化）（柳川橋）

	BOD (mg/L)	DO (mg/L)	SS (mg/L)
平成27年度	2.7	8.2	2
28	3.4	8.7	1
29	5.0	7.4	3
30	2.6	8.3	2
令和元年	1.9	7.9	3
2	4.3	8.3	4
3	1.5	8.3	4
4	1.3	8.2	2.3
5	1.1	8.97	2.7
6	5.17	7.23	3

資料：環境政策課

資料：環境政策課

人の健康の保護に関する環境基準の調査結果

- 多摩川、野川、仙川の人の健康の保護に関する環境基準の調査結果は以下の通りです。

表 令和6年度における「人の健康の保護に関する環境基準」項目調査結果

(単位: mg/L)	採水日	多摩川	府中用水	野川	仙川
		狛江市境	多摩川流入前	狛江市境	柳川橋
カドミウム	6/6	<0.0003	—	<0.0003	—
全シアン	6/6	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1
	11/7	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1
	6/6	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002
鉛	11/7	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002
六価クロム	6/6	<0.01	—	<0.01	—
砒素	6/6	<0.005	—	<0.005	—
総水銀	6/6	<0.0005	—	<0.0005	—
アルキル水銀	6/6	<0.0005	—	<0.0005	—
PCB	6/6	<0.0005	—	<0.0005	—
トリクロロエチレン	6/6	<0.001	—	<0.001	—
テトラクロロエチレン	6/6	<0.0002	—	<0.0002	—
四塩化炭素	6/6	<0.0002	—	<0.0002	—
1,1,1-トリクロロエタン	6/6	<0.0002	—	<0.0002	—
ジクロロメタン	6/6	<0.0002	—	<0.0002	—
1,2-ジクロロエタン	6/6	<0.0002	—	<0.0002	—
1,1,2-トリクロロエタン	6/6	<0.0002	—	<0.0002	—
1,1-ジクロロエチレン	6/6	<0.0002	—	<0.0002	—
シス-1,2-ジクロロエチレン	6/6	<0.0002	—	<0.0002	—
1,3-ジクロロプロペン	6/6	<0.0002	—	<0.0002	—
ベンゼン	6/6	<0.0002	—	<0.0002	—
チウラム	6/6	<0.0006	—	<0.0006	—
セレン	6/6	<0.002	—	<0.002	—
硝酸性窒素及び 亜硝酸性窒素	6/6	2.8	3.3	2.3	5.2
	11/7	3.0	3.6	4.8	6.1
ふつ素	6/6	0.04	—	0.04	—
ホウ素	6/6	0.02	—	—	—
	11/7	—	0.02	—	—
1,4-ジオキサン	6/6	<0.005	—	<0.005	—
シマジン	6/6	<0.0003	—	—	—
チオベンカルブ	6/6	<0.0003	—	—	—

(2) 水生生物

① 生物学的水質判定の目安

- 生物学的な水質の判定方法として、調布市では優先種法、Beck-Tsuda法、Kolkwitz法及び汚濁指數法の4つから総合的な判定を行っています。

生物学的 水質等級	底生生物（例）	付着藻類（例）	相当する水域 類型（参考）
Os ・貧腐水性 ・きれい	ヒラタカゲロウ類 カワゲラ ナガレトビゲラ ヘビトンボ サワガニ プラナリア	↑コンポウランソウ ↓ ↑マガリケイソウ ↓ ↑コバンケイソウ ↓ ↑クチビルケイソウ ↓	AA A
β_m ・ β －中腐水性 ・わりあいきれい	コカゲロウ コガタシマトビゲラ ヒラタドロムシ	カタサヤユレモ	B
	シジミ モノアライガイ ヌマエビ	↑オビケイソウ ↓	C
α_m ・ α －中腐水性 ・汚れている	サホコカゲロウ ミズムシ シマイシビル	キヌハリコ	D
	ヒメタニシ	↓	E
Ps ・超腐水性 ・とても汚れている	イトミミズ 赤色ユスリカ ホシチョウバエ サカマキガイ	↓	該当する 類型無し

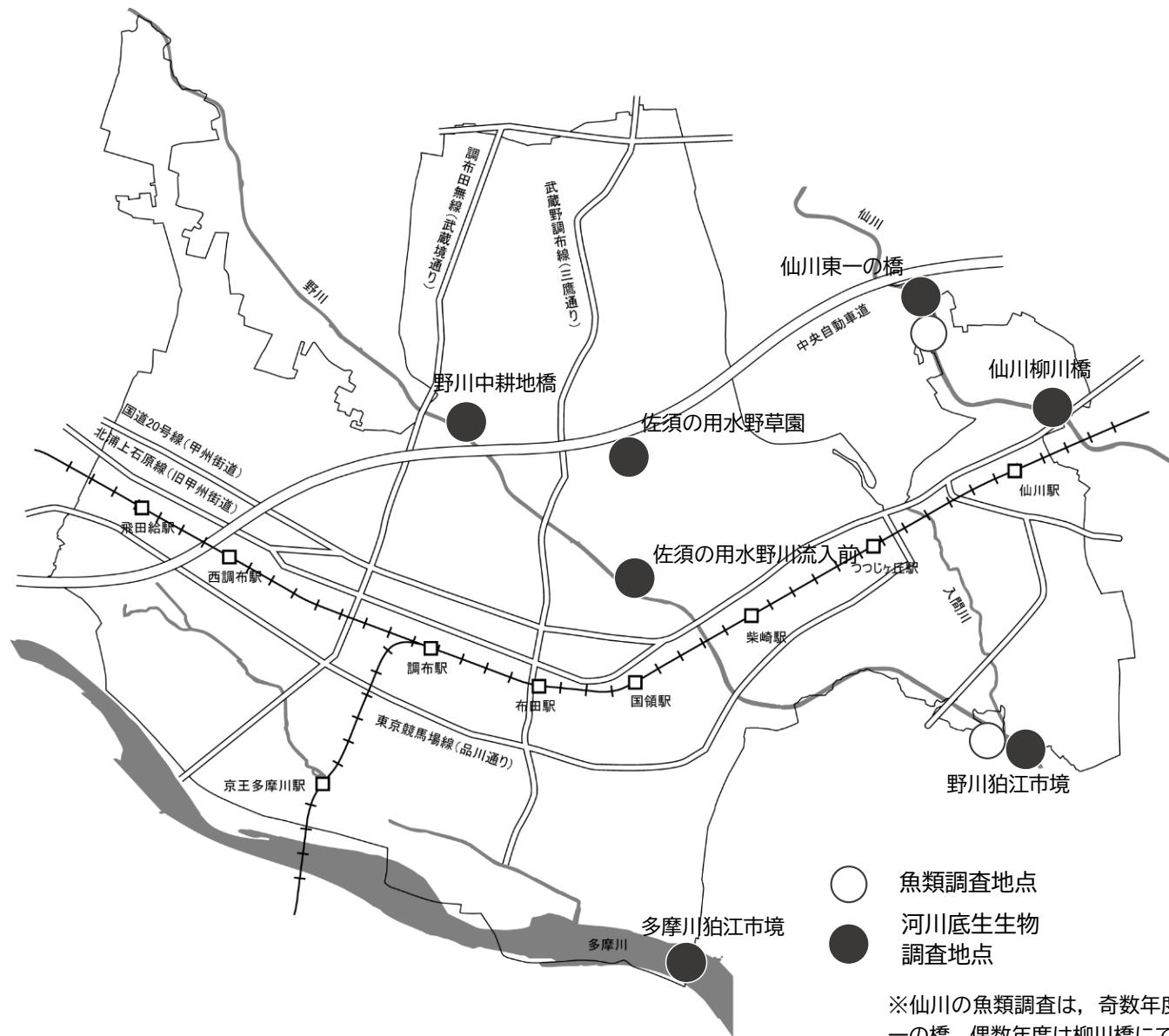


図 水生生物調査地点図

② 調査結果

表 水生生物による河川の生物学的水質判定の推移

調査年度	調査日	調査項目	多摩川	野川		仙川		佐須の用水	
			狛江市境	中耕地橋 (橋場橋)	狛江市境	東一の橋	柳川橋	野草園	野川 流入前
平成27年度	10/5	底生生物	Os~ β m	α m	β m	α m	α m	—	Os
		付着藻類	β m	β m	β m	β m	β m	β m	β m
28	10/12	底生生物	α m	β m	β m	α m	α m	—	Os~ β m
		付着藻類	β m	β m	β m	β m~ α m	β m	β m	β m
29	10/12	底生生物	β m	β m	β m	β m~ α m	Ps	—	α m
		付着藻類	β m	β m	β m	β m	Ps	Os~ β m	Os
30	10/30	底生生物	Os~ β m	β m	Os	β m	α m	—	Os~ β m
		付着藻類	β m	β m	β m	β m	β m	β m	β m
令和元年度	12/5	底生生物	Os~ β m	Os~ β m	Os~ β m	β m~ α m	α m	—	Os
		付着藻類	β m	Os~ β m	β m	β m	β m	Os~ β m	Os~ β m
2	11/17	底生生物	Os	Os~ β m	Os~ β m	β m~ α m	α m~Ps	—	Os
		付着藻類	β m	β m	β m	β m	β m	β m	β m
3	11/16	底生生物	Os	β m	β m	β m~ α m	Ps	—	Os
		付着藻類	Os	Os~ β m	Os	Os~ β m	Os~ β m	β m	Os
4	11/28	底生生物	β m	β m	β m	α m	α m	—	β m
		付着藻類	β m	β m	β m	β m	Os~ β m	Os~ β m	Os~ β m
5	11/14	底生生物	β m	β m~ α m	β m	β m~ α m	α m	—	β m~ α m
	11/15	付着藻類	β m	Os~ β m	Os~ β m	β m	β m	Os~ β m	Os
6	11/22	底生生物	β m	Os~ β m	β m	β m~ α m	β m	—	β m
		付着藻類	β m	β m	β m	β m	β m	Os~ β m	Os~ β m

※ Os: きれいな水域, β m: わりあいきれいな水域, α m: 汚れている水域, Ps: とても汚れている水域 (水質判定の目安を参照)

資料: 環境政策課

② 調査結果

表 魚類調査結果の推移（仙川）

生物名		平成27 年度	28	29	30	令和元 年度	2	3	4	5	6
コイ目	コイ科	オイカワ									
		モツゴ	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		タモロコ		○	○	○	○	○	○	○	
		コイ	○	○	○	○	○				
		ギンブナ									
		フナ属		○							
ダツ目	ドジョウ科	ドジョウ									
		シマドジョウ									
メダカ科	メダカ				○	○	○		○		○

資料：環境政策課

※ 令和6年度調査日：令和6年11月22日

※ 当日調査で確認された魚類に○を付けている（確認できなかった魚類が存在していないというわけではない）

※ 東一の橋にて調査（仙川の魚類調査は、例年、奇数年度は東一の橋、偶数年度は柳川橋にて測定

※ 平成25年度は未調査

表 魚類調査結果の推移（野川：泊江市境）

生物名			平成27 年度	28	29	30	令和 元年度	2	3	4	5	6
コ イ 目	コイ科	オイカワ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		シマドジョウ							○	○	○	○
		モツゴ	○	○	○	○	○	○	○	○		
		タモロコ		○	○	○		○	○			○
		コイ	○	○	○							
		ギンブナ										
		カマツカ								○		
		ウグイ	○			○						○
		ニゴイ				○	○					
		フナ属								○		
ダ ツ 目	メダカ科	メダカ		○	○	○	○	○	○	○	○	○
サ ケ 目	アユ科	アユ										
ス ズ キ 目	ハゼ科	スミウキゴリ					○		○			○
		チチブ属								○		○
		ヨシノボリ属										○
ナ マ ズ 目	ナマズ科	ナマズ	○			○						

※ 令和6年度調査日：令和6年11月22日

※ 当日調査で確認された魚類に○を付けている（確認できなかった魚類が存在していないというわけではない）

資料：環境政策課

(3) 地下水

① 地下水の水質汚濁に係る環境基準

表 地下水の水質汚濁に係る環境基準と調布市の調査対象項目（環境基本法）

分類	項目	基準値	主な毒性※1	調布市調査
VOC (揮発性有機化合物)	四塩化炭素	0.002mg/L以下	意識喪失, 慢性脳障害, 発ガン性の疑い (IARC2B)	○
	1, 2-ジクロロエタン	0.004mg/L以下	肺炎・肝障害, 発ガン性の疑い (IARC2B)	
	1, 1-ジクロロエチレン	0.1mg/L以下※2	肺炎, 肝障害, 変異原性	
	シス1, 2-ジクロロエチレン	0.04mg/L以下	意識低下, 皮膚脱脂	
	1, 3-ジクロロプロパン	0.002mg/L以下	皮膚・気道刺激, 発ガン性の疑い (IARC2B)	
	ジクロロメタン	0.02mg/L以下	肺炎, 肝障害, 発ガン性の疑い (IARC2B)	
	テトラクロロエチレン	0.01mg/L以下	肝臓・腎臓への影響, 人の発ガン性の疑い (IARC2A)	○
	1, 1, 1-トリクロロエタン	1mg/L以下	呼吸困難, 意識喪失, 肝障害	○
	1, 1, 2-トリクロロエタン	0.006mg/L以下	肝腎障害	
	トリクロロエチレン	0.01mg/L以下※3	神経障害, 肝腎障害, 変異原性, 人の発ガン性の疑い (IARC2A)	○
	ベンゼン	0.01mg/L以下	肺炎, 意識喪失, 人の発ガン性 (IARC1)	

参考：環境省 挥発性有機化合物による地下水汚染対策に関するパンフレット「地下水をきれいにするために」

※1 IARC1：人への発ガン性データが充分ある。 IARC2A：人への発ガン性が疑われる物質
IARC2B：発ガン性の可能性のある物質 ともに国際ガン研究機関による発ガン性評価

※2 平成21年に0.02mg/Lから0.1mg/L以下に変更

※3 平成26年に0.03mg/Lから0.01mg/L以下に変更

備考

1. 基準値は年間平均とする
ただし, 全シアンに係る基準値については, 最高値とする
2. 「検出されないこと」とは, 規定の測定方法により測定した場合において, その結果が測定方法の定量限界を下回ることをいう

分類	項目	基準値	主な毒性	調布市調査
重金属	カドミウム	0.003mg/L以下	嘔吐, めまい, 腎不全, 人の発ガン性 (IARC1)	
	六価クロム	0.02mg/L以下※	嘔吐, 下痢, 肝炎, 人の発ガン性 (IARC1)	
	全シアン	検出されないこと	呼吸麻痺, 失神, 痙攣	
	総水銀	0.0005mg/L以下	手指の震え, 腎障害	
	アルキル水銀	検出されないこと	知覚言語障害, 運動障害	
	セレン	0.01mg/L以下	嘔吐, 胃腸障害, 貧血	
	鉛	0.01mg/L以下	嘔吐, 下痢, 感覚障害, 発ガン性の疑い (IARC2B)	
	砒素	0.01mg/L以下	嘔吐, 下痢, 黒皮症, 人の発ガン性 (IARC1)	
	ふつ素	0.8mg/L以下	呼吸器障害, 齒骨への影響	
	ほう素	1mg/L以下	嘔吐, 神経障害, 下痢	
	シマジン	0.003mg/L以下	頭痛, 神経障害	
	チウラム	0.006mg/L以下	頭痛, 咳, 肝肺への影響	
	チオベンカルブ	0.02mg/L以下	急性毒性あり	
	PCB	検出されないこと	手足のしびれ, 肝臓障害, 人の発ガン性の疑い (IARC2A)	
	硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素	10mg/L以下	メトヘモグロビン血症	

参考：環境省 挥発性有機化合物による地下水汚染対策に関するパンフレット「地下水をきれいにするために」

※ 令和4年に0.05 mg/Lから0.02mg/L以下に変更

備考

1. 基準値は年間平均とする。ただし、全シアンに係る基準値については、最高値とする
2. 「検出されないこと」とは、規定の測定方法により測定した場合において、その結果が測定方法の定量限界を下回ることをいう

② 調査結果

- 過去の地下水調査結果の推移を見ると、対象物質を検出した井戸は10か所前後で推移していますが、そのうち基準に適合しなかった井戸は1～3か所程度で推移しています。
- 環境基準不適合の井戸については、できる限り翌年度も経過観察を行っており、令和6年度では、3か所の井戸が基準不適合でした。

表 地下水調査結果の推移

(単位：箇所)

	調査井戸数	有機塩素系化学物質 検出井戸数	地下水の水質汚濁に係る 環境基準不適合井戸数	環境基準不適合井戸の 町丁目
平成27年度	18	15	2	染地2丁目, 緑ヶ丘2丁目
28	14	12	2	染地2丁目, 緑ヶ丘2丁目
29	15	6	2	染地2丁目, 緑ヶ丘2丁目
30	13	10	1	染地2丁目
令和元年度	14	7	0	—
2	14	10	1	染地2丁目
3	7	5	2	染地2丁目, 仙川2丁目
4	11	7	3	染地1・2丁目, 緑ヶ丘2丁目
5	11	6	3	染地1・2丁目, 緑ヶ丘2丁目
6	9	4	3	染地1・2丁目, 緑ヶ丘2丁目

資料：環境政策課

- 東京都が実施した調査により、多摩川3丁目付近の井戸から環境基準値を大幅に超える有機塩素系化学物質が検出され、東京都は汚染機構解明調査を行い、除去手法研究を行いました。その後、平成12年に東京都と調布市で協議の上、浄化対策を市が行うこととなり、平成13年に浄化計画を立て、平成14年6月から、本格的な浄化作業に着手しています。
- 令和6年度の調査では、各項目の環境基準に適合しませんでしたが、浄化対策を実施してから、地下水の化学物質濃度は減少傾向にあります。

表 多摩川3丁目付近井戸における地下水揚水原水濃度の推移

		テトラクロロエチレン	トリクロロエチレン	シス-1,2-ジクロロエチレン	クロロエチレン
		(mg/L)	(mg/L)	(mg/L)	(mg/L)
地下水の水質汚濁に係る環境基準		0.01未満	0.03未満	0.04未満	0.002未満
平成27年度	平成28年3月7日	0.22	0.63	0.98	-
28	平成29年3月6日	0.16	0.59	1.1	-
29	平成30年3月9日	0.10	0.47	1.0	-
30	平成31年3月20日	0.093	0.47	1.1	0.0011
令和元年度	令和2年3月10日	0.061	0.36	1.0	0.0010
2	令和3年3月9日	0.038	0.32	1.0	0.0011
3	令和4年3月8日	0.021	0.19	0.9	0.0009
4	令和5年3月3日	0.015	0.15	0.9	0.0012
5	令和6年3月8日	0.0063	0.086	0.79	0.0013
6	令和7年3月11日	0.0050	0.068	0.64	0.0012

※ 地下水浄化後の数値は定量未満となっている

※ 測定は公定法による

※ 平成30年度よりクロロエチレンを調査項目に追加

資料：環境政策課

(4) 湧水

① 湧水調査地

- 市内の湧水に関する情報・事例を収集し、実態を把握することによって、減少傾向にあるとされる市内の湧水の保全及び回復の具体的な方策を検討するため、湧水調査を行いました。
- 調査は豊水期と渴水期に、市内54か所を調査しました。



② 調査結果

- 令和4年度調査の結果では、豊水期29か所、渴水期27か所において湧水が確認されました。
- 湧水箇所数は、前回調査（平成30年度比）とほぼ同様でした。

表 調査実施時期

調査年度	豊水期	渴水期
平成23年度	11月18, 21, 22日	2月15, 16日
平成26年度	9月16, 17, 18日	2月3, 4, 10日
平成30年度	10月9, 10, 11日	2月2, 5, 7日
令和4年度	10月19, 20, 21日	2月7, 8, 9日

表 湧水調査結果

No	住所	名称等	湧水状況調査結果					
			湧水を確認できなくなつた年度	平成26年度	平成30年度	令和4年度	豊水期	渴水期
		湧水確認箇所数	—	27	27	29	22	29
1	飛田給2-29	布田崖線下	平成19年度	—	—	—	—	—
2	上石原2-18	旧警察庁第七機動隊北側（府中用水）		○	○	○	○	○
3	上石原2-19	市立第三小学校南側（府中用水）		○	○	○	○	○
4	上石原2-47	社会教育施設用地南側（府中用水）		—	—	○	—	○
5	下石原3-23	石原橋上流部（府中用水）		○	○	○	○	○
6	下石原3-5	若宮八幡神社南側（府中用水）		○	○	○	○	○
7	深大寺元町2	民家	平成10年度	—	—	—	—	—
8	深大寺元町2	民家	平成10年度	—	—	—	—	—
9	深大寺元町2	民家	平成19年度	—	—	—	—	—
10	深大寺元町2-12	池上院北側		○	○	○	○	○
11	深大寺元町2-33	深大寺通り民家周辺	平成12年度	—	—	—	—	—
12	深大寺元町3	民家		—	—	—	—	○
13	深大寺元町3	民家	平成12年度	—	—	—	—	—
14	深大寺元町3	民家	平成10年度	—	—	—	—	—
15	深大寺元町5-9	水神苑大師茶屋北側駐車場擁壁	平成19年度	—	—	—	—	—
16	深大寺元町5-9	そば処湧水北側		○	○	○	○	○
17	深大寺元町5-10	水神苑北西側水路		○	○	○	○	○

No	住所	名称等	湧水状況調査結果						
			湧水を確認できな くなった年度	平成26年度		平成30年度		令和4年度	
				豊水期	渴水期	豊水期	渴水期	豊水期	渴水期
18	深大寺元町5-11	深大寺深沙大王堂北側		○	○	○	—	○	○
19	深大寺元町5-11	深大寺深沙大王堂北側		—	—	—	—	○	—
20	深大寺元町5-11	境内水路		○	○	○	○	○	○
21	深大寺元町5-11	深大寺延命観音堂南側		○	○	○	○	○	○
22	深大寺元町5-14	深大寺境内	平成12年度	—	—	—	—	—	—
23	深大寺元町5-15	深大寺本堂		—	—	○	—	—	—
24	深大寺元町5-15	深大寺釈迦堂階段下		○	○	○	—	○	○
25	深大寺元町5-15	深大寺本坊通用門東側		○	○	○	—	○	○
26	深大寺元町5-15	深大寺不動堂滝口		○	○	○	○	○	○
27	深大寺南町1-25	深大寺自然広場野草園		○	○	○	○	○	○
28	深大寺南町1-25	深大寺自然広場カタクリ群生地下	平成19年度	—	—	—	—	—	—
29	深大寺南町2-17	力ニ山キャンプ場広場	平成19年度	—	—	—	—	—	—
30	深大寺南町2-18	力ニ山キャンプ場西側	平成19年度	—	—	—	—	—	—
31	深大寺南町4-16	神代農場ワサビ田		○	○	○	○	○	○
32	深大寺南町4-16	神代農場上部流入		○	○	○	○	○	○
33	深大寺南町4-16	神代農場養鱒池下流		○	○	○	○	—	—
34	深大寺南町4-16	神代農場左岸池		○	○	○	—	○	○
35	深大寺南町4-17	深大寺自然広場西斜面	平成19年度	—	—	—	—	—	—
36	深大寺南町4-17	深大寺自然広場農場境界		○	○	○	○	○	○
37	深大寺南町4-17	深大寺自然広場東斜面		○	○	○	○	○	○
38	深大寺南町4-17	神代農場	平成19年度	—	—	—	—	—	—
39	佐須町5	民家		○	○	○	○	○	○
40	佐須町5	民家	平成19年度	—	—	—	—	—	—
41	佐須町5	民家		○	○	○	○	○	○
42	多摩川1-29	石原橋下流		○	○	○	○	○	○
43	多摩川4-7	京王刃-ラルガ-デ-ンソジ I西側水底 (府中用水)		○	○	○	○	○	○
44	多摩川4-38	京王刃-ラルガ-デ-ンソジ I内水底 (府中用水)		○	○	○	○	○	○

No	住所	名称等	湧水状況調査結果						
			湧水を確認できな くなった年度	平成26年度		平成30年度		令和4年度	
				豊水期	渴水期	豊水期	渴水期	豊水期	渴水期
45	上布田町	多摩川府中用水合流点上流ワンド		○	○	○	不明	○	○
46	国領町6	民家	平成19年度	—	—	—	—	—	—
47	国領町7	マンション南側（府中用水）	平成19年度	—	—	—	—	—	—
48	染地1-2	布田崖線下用水①	平成19年度	—	—	—	—	—	—
49	染地1-14	布田崖線下用水②	平成12年度	—	—	—	—	—	—
50	染地1-15	布田崖線下用水③	平成19年度	—	—	—	—	—	—
51	染地2-19	布田崖線下用水④	平成12年度	—	—	—	—	—	—
52	若葉町1-23	実篤公園		○	○	○	○	○	○
53	入間町1-8	NTT入間樹林①	昭和60年度	—	—	—	—	—	—
54	入間町1-9	NTT入間樹林②	昭和60年度	—	—	—	—	—	—

資料：環境政策課

4 騒音・振動

(1) 騒音

① 騒音に係る環境基準

	地域の類型	当てはめ地域	基準値	
			昼間 (6時～22時)	夜間 (22時～6時)
一般地域	AA	療養施設、社会福祉施設等が集合して設置される地域など特に静穏を要する地域	50デシベル以下	40デシベル以下
	A及びB	A：専ら住居の用に供される地域 B：主として住居の用に供される地域	55デシベル以下	45デシベル以下
道路に面する地域	C	相当数の住居と併せて商業、工業等の用に供される地域	60デシベル以下	50デシベル以下
		A地域のうち2車線以上の車線を有する道路に面する地域	60デシベル以下	55デシベル以下
		B地域のうち2車線以上の車線を有する道路に面する地域及びC地域のうち車線を有する道路に面する地域	65デシベル以下	60デシベル以下
		幹線交通を担う道路に近接する空間	70デシベル以下	65デシベル以下

資料：環境省「交通騒音問題の未然防止のための沿道・沿線対策に関するガイドライン（別添）」

- ※ 幹線交通を担う道路：高速自動車道、一般国道、都道府県道及び市町村道（市町村道にあっては4車線以上の区間に限る。）等を表し、「幹線交通を担う道路に近接する空間とは、以下のように車線数の区分に応じて道路端からの距離によりその範囲を特定
- ・2車線以下の車線を有する幹線交通を担う道路：15m
 - ・2車線を超える車線を有する幹線交通を担う道路：20m

② 騒音に係る要請限度

区域の区分	当てはめ地域	車線等	時間の区分	
			昼間 (6時～22時)	夜間 (22時～翌6時)
a 区域	第1種低層住居専用地域	1車線	65デシベル以下	55デシベル以下
	第2種低層住居専用地域	2車線以上	70デシベル以下	65デシベル以下
	第1種中高層住居専用地域 第2種中高層住居専用地域 (AA地域を含む)	近接区域	75デシベル以下	70デシベル以下
b 区域	第1種住居地域	1車線	65デシベル以下	55デシベル以下
	第2種住居地域 準住居地域 用途地域の定めのない地域	2車線以上 近接区域	75デシベル以下	70デシベル以下
c 区域	近隣商業地域 商業地域 準工業地域 工業地域	1車線 2車線以上 近接区域	75デシベル以下	70デシベル以下
記事	・ 車線とは1縦列の自動車が安全かつ円滑に走行するために必要な幅員を有する帯状の車道部分をいう。 ・ 近接区域とは、幹線交通を担う道路に近接する区域をいい、幹線交通を担う道路とは、高速自動車国道、一般国道、都道府県道及び4車線以上の区市町村道をいう。近接する区域とは、車線の区分に応じた道路端からの距離が2車線以下の車線を有する道路は15m、2車線を超える車線を有する道路は20mの範囲とする。			

資料：東京都環境局

備考

1 測定評価の地点

- (1) 道路に接して住居等が立地している場合は、道路端における騒音レベルとする
- (2) 道路に沿って非住居系の土地利用がなされ、道路から距離をおいて住居等が立地している場合は住居等に到達する騒音レベルを測定評価する

2 騒音の測定は当該道路のうち原則として交差点を除く部分に係る自動車騒音を対象とし、測定日数は、連続する7日間のうち当該自動車騒音の状況を代表すると認められる3日間について行うものとする

3 騒音の測定方法は、原則としてJIS Z8731に定める騒音レベル測定法による

4 騒音の評価手法は、等価騒音レベルによるものとする

5 騒音の大きさは、測定した値を時間の区分ごとに3日間の原則として、全時間を通じてエネルギーに平均した値とする

③ 調査結果

- 令和6年度は、道路交通騒音レベルの測定を市内5か所で行いました。昼間の環境基準を達成できなかった地点は1か所。夜間の環境基準を達成できなかった地点は2か所でした。また、要請限度を達成できなかった地点はありませんでした。

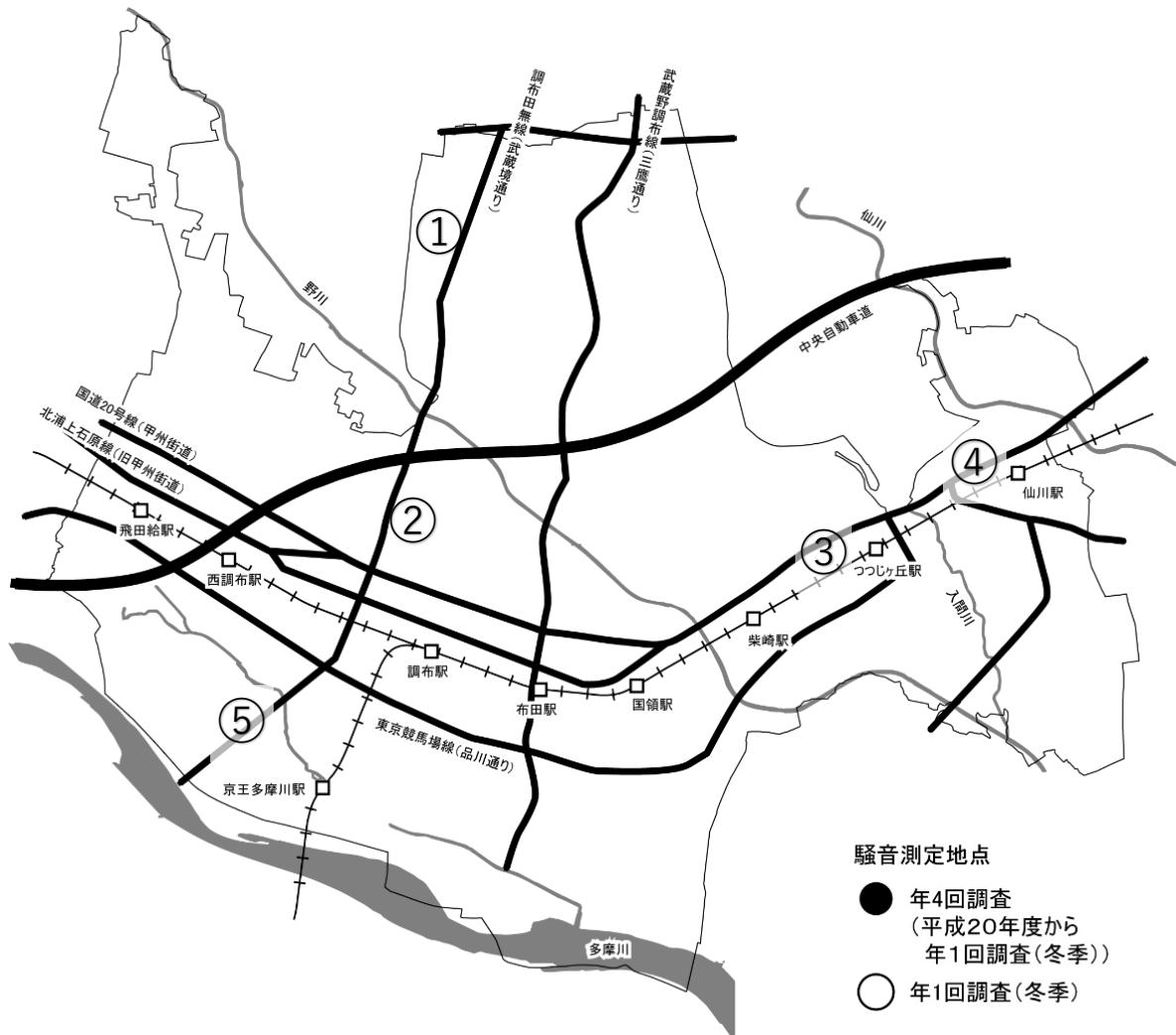


図 騒音測定地点図

表 測定地点の道路交通騒音に係る環境基準値と要請限度

(単位：デシベル)

測定地点	環境基準 類型	要請 限度	路線名 (通称名)	車線数	環境基準		要請限度	
					昼間	夜間	昼間	夜間
① 深大寺北町7-6-10	A	a	都道調布田無線 (武蔵境通り)	4	70	65	75	70
② 富士見町2-16-33	A	a	都道調布田無線 (武蔵境通り)	2				
③ 西つつじヶ丘 3-19-1	B	b	国道20号線 (甲州街道)	4	70	65	75	70
④ 仙川町2-6地先	C	c	国道20号線 (甲州街道)	4				
⑤ 多摩川2-26地先	C	c	都道町田調布線 (鶴川街道)	4				

資料：環境政策課

表 令和6年度測定結果

(単位：デシベル)

測定地点	測定日	昼					夜				
		測定 結果	環境 基準	環境基 準達成 状況	要請 限度	要請限 度達成 状況	測定 結果	環境 基準	環境基 準達成 状況	要請 限度	要請限 度達成 状況
①深大寺北町7-6-10	1/29 1/30	60	70	○	75	○	56	65	○	70	○
②富士見町2-16-33	2/3 2/4	64	70	○	75	○	61	65	○	70	○
③西つつじヶ丘3-19-1	1/29 1/30	70	70	○	75	○	67	65	×	70	○
④仙川町2-6地先	1/29 1/30	70	70	○	75	○	69	65	×	70	○
⑤多摩川2-26地先	2/3 2/4	69	70	○	75	○	63	65	○	70	○

資料：環境政策課

表 測定結果の推移

(単位：デシベル)

	①深大寺北町7-6-10		②富士見町2-16-33		③西つつじヶ丘 3-19-1		④仙川町2-6先		⑤多摩川2-26先	
	昼間	夜間	昼間	夜間	昼間	夜間	昼間	夜間	昼間	夜間
平成27年度	61	58	68	68	71	69	72	71	70	65
28	63	61	68	67	73	70	74	73	69	65
29	57	52	67	66	72	68	71	71	68	64
30	57	53	66	64	72	69	72	71	67	62
令和元年	58	54	66	65	72	69	72	70	65	60
2	59	54	62	57	71	67	72	70	64	58
3	58	54	61	58	71	68	71	69	63	58
4	58	54	62	59	69	66	69	67	64	59
5	59	56	63	60	70	68	72	70	65	60
6	60	56	64	61	70	67	70	69	69	63

資料：環境政策課

道路交通騒音の常時監視結果

- 自動車騒音の状況の常時監視は、自動車騒音対策を計画的総合的に行うために、地域の騒音暴露状況を経年的に系統立てて監視することが必要不可欠であるとして、地方自治法第245条の9の規定に基づき、都道府県及び市が行う法定受託事務です。常時監視は、当該法定受託事務を処理するに当たりるべき基準として通知された「騒音規制法第18条の規定に基づく自動車騒音の状況の常時監視に係る事務の処理基準について（平成23年7月改正）」により実施しています。
- なお、自動車騒音の状況の常時監視とは、状況把握を継続的に行うことであり、365日24時間連続的に監視するということではありません。
- 調布市では、道路周辺地域の環境改善を図るため、市内の主要幹線道路を対象として、環境省の面的評価支援システム（一定の住居範囲におけるある1点（A）で測定した騒音から、当該居住範囲の全戸（B）の騒音を推計する新たな騒音の計測方法）により、計画的に自動車騒音を測定しています。

表 令和6年度 各区間の評価結果

道路名 (通称名)	区間番号	基準点騒音 レベル(dB)※A		残留騒音 レベル(dB)※A		環境基準 達成率(%)		環境基準 達成戸数(戸)		全戸数(戸) ※B
		昼間	夜間	昼間	夜間	昼間	夜間	昼間	夜間	
中央自動車道 富士吉田線	70	63	61	50	43	91.4	79.3	1,383	1,201	1,513
中央自動車道 富士吉田線	80	61	57	47	42	100.0	99.7	890	888	890
一般国道20号	17010	70	67	43	35	99.7	94.2	6,634	6,265	6,650
調布田無線	40720	60	56	38	37	100.0	99.8	725	724	725
調布田無線	40760	64	61	45	42	98.9	89.7	665	603	672
町田調布線	41240	69	63	45	41	99.7	99.7	1,356	1,357	1,360
町田調布線	41290	64	55	38	37	100.0	100.0	316	316	316

資料：環境政策課

(2) 振動

① 振動に係る要請限度

区域の区分	当てはめ地域	時間の区分	基準値
第1種区域	第1種低層住居専用地域	昼間（8時～19時）	65
	第2種低層住居専用地域		
	第1種中高層住居専用地域		
	第2種中高層住居専用地域		
	第1種住居地域・第2種住居地域	夜間（19時～翌日8時）	60
	準住居地域 用途地域の定めのない地域		
第2種区域	近隣商業地域	昼間（8時～20時）	70
	商業地域		
	準工業地域		
	工業地域	夜間（20時～翌日8時）	65

備考

資料：東京都環境局

- 1 振動の測定場所は、道路の敷地の境界線とする
- 2 振動の測定は、当該道路に係る道路交通振動を対象とし、当該道路振動の状況を代表すると認められる1日について、昼間及び夜間の区分ごとに1時間当たり1回以上の測定を4時間以上行うものとする
- 3 振動の測定方法は、次のとおりとする
 - (1) 振動ピックアップの設置場所は、次のとおりとする
 - イ 緩衝物がなく、かつ、十分踏み固め等の行われている固い場所
 - ロ 傾斜及び凹凸がない水平面を確保できる場所
 - ハ 温度、電気、磁気等の外因条件の影響を受けない場所
 - (2) 暗振動の影響の補正は、次のとおりとする

測定の対象とする振動に係る指示値と暗振動（当該測定場所において発生する振動で当該測定の対象とする振動以外のものをいいます。）の指示値の差が10デシベル未満の場合は、測定対象とする振動に係る指示値から次の表の上欄に掲げる指示値の差ごとに、同表の下欄に掲げる補正值を減ずるものとする

指示値の差(デシベル)	3	4	5	6	7	8	9
補正値(デシベル)	3	2			1		

- 4 振動レベルは、5秒間隔、100個又はこれに準ずる間隔、個数の測定値の80%レンジの上端の数値を、昼間及び夜間の区分ごとにすべてについて平均した数値とする

② 調査結果

- 市内3か所で測定を行っています。測定地点ごとの要請限度区分は以下のとおりです。

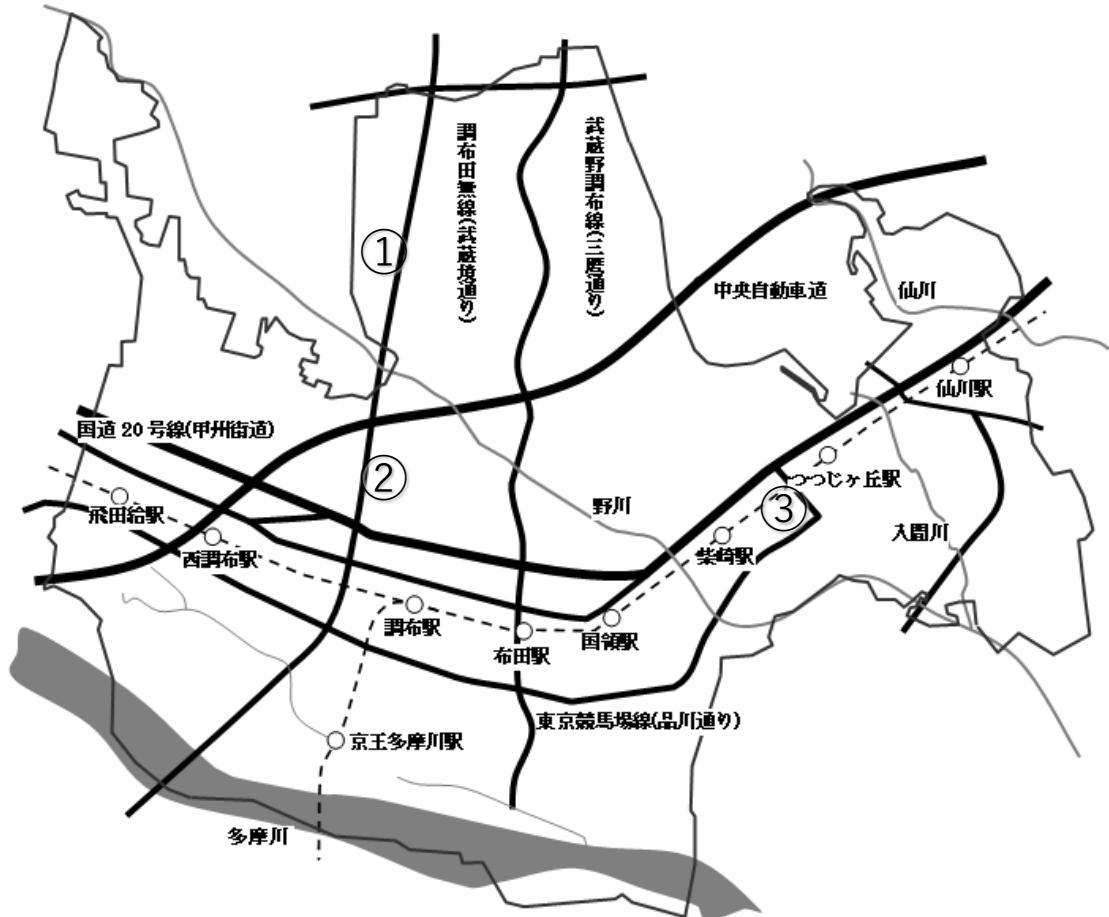


図 振動測定地点図

表 測定地点の道路交通振動に係る要請限度

(単位: デシベル)

測定地点	区域の区分	要請限度	
		昼間	夜間
①深大寺北町7-6-10地先	第1種区域		
②富士見町2-16-33地先			
③西つつじヶ丘3-19-1地先		65	60

資料: 環境政策課

- 令和6年度は、すべての測定地点で、要請限度を達成しています。
- 振動の推移を見ると、過去10年間を通して要請限度の数値を達成しています

表 測定結果（令和6年度）

測定地点	測定日	昼			夜		
		測定結果	要請限度	要請限度達成状況	測定結果	要請限度	要請限度達成状況
		単位：dB	単位：dB		単位：dB	単位：dB	
①深大寺北町7-6-10	1/24-1/25	45	65	○	39	60	○
②富士見町2-16-33	1/24-1/25	45	65	○	41	60	○
③西つつじヶ丘3-19-1	1/24-1/25	43	65	○	38	60	○

資料：環境政策課

表 測定結果の推移

(単位：デシベル)

	つつじヶ丘児童館付近		希望の家授産場前		神代植物公園前駐在所付近		仙川キユーポート付近	
	昼間	夜間	昼間	夜間	昼間	夜間	昼間	夜間
平成27年度	41	40	53	51	47	42	—	—
28	44	41	56	51	47	42	—	—
29	—	—	48	44	46	40	54	52
30	46	40	48	44	43	40	—	—
令和元年度	51	47	50	46	45	40	—	—
2	46	40	41	38	45	40	—	—
3	47	42	43	39	46	41	—	—
4	44	41	42	40	46	40	—	—
5	42	39	45	41	46	41	—	—
6	43	38	45	41	45	39	—	—

※ 平成29年度について、つつじヶ丘児童館付近は現地踏査の結果により測定せず、測定地点は仙川キユーポート付近

資料：環境政策課